



SUZU 2017
OKU-NOTO TRIENNALE

奥能登国際芸術祭 2017

総括報告書

奥能登国際芸術祭実行委員会

「奥能登国際芸術祭 2017」総括報告集 目次

はじめに p.5

1 開催までの主な経緯 p.6

2 開催結果に対する検証

2-(1)会期中の推計来場者数について p.13

2-(1)-①作品来場者数 p.13

2-(1)-②イベント来場者数 p.15

2-(2)財政面における検証

2-(2)-①作品鑑賞パスポート等の販売状況 p.15

2-(2)-②寄付金・協賛金について p.17

2-(2)-③助成金・補助金について p.18

2-(2)-④収支の状況(実行委員会会計) p.19

2-(3)運営体制における検証 p.19

2-(3)-①実行委員会体制 p.19

2-(3)-②事務局体制 p.20

2-(3)-③行政職員等の連携 p.21

2-(3)-④サポーター・ボランティアや地域住民との協働 p.24

【参考】「集落説明会」の開催 ～作品制作にかかる説明・協力依頼のプロセス～

2-(3)-④ i 登録サポーター状況 p.27

2-(3)-④ ii サポーター活動人数 p.27

2-(3)-④ iii 地元協力者について p.28

2-(4)個々の取り組みの検証 p.29

2-(4)-①案内体制 p.29

2-(4)-① i 公式インフォメーションセンター p.29

2-(4)-① ii サイン看板 p.29

2-(4)-① iii 案内用ツール(ガイドブック、マップ) p.30

2-(4)-②交通システム

2-(4)-② i 作品案内バス「すずバス」 p.32

2-(4)-② ii レンタサイクル p.33

2-(4)-② iii レンタカー利用状況 p.33

2-(4)-② iv のと里山空港利用状況 p.34

2-(4)-② v 珠洲特急バス利用状況 p.34

2-(4)-② vi 渋滞・駐車場対策 p.35

- 2-(4)-③受け入れ・もてなし p.35
 - 2-(4)-③ i 珠洲 まつり御膳 p.35
 - 2-(4)-③ ii 公式グッズ制作・販売 p.36
 - 2-(4)-③ iii 珠洲特産品リデザイン事業 p.38
 - 2-(4)-③ iv 市内「道の駅」利用状況 p.41
 - 2-(4)-③ v 「作品鑑賞パスポート特典」利用状況 p.42
 - 2-(4)-③ vi 宿泊及び飲食について p.43
 - 2-(4)-③ vii 「日置ハウス」利活用状況 p.43
 - 2-(4)-③ viii 視察対応状況 p.44
- 2-(4)-④広報・宣伝の取り組みについて p.45
 - 2-(4)-④ i 「おくノートプロジェクト」の取り組み p.45
 - 2-(4)-④ ii 広報印刷物 p.46
 - 2-(4)-④ iii 公式ウェブの展開 p.47
 - 2-(4)-④ iv 公式 SNS の運用 p.48
 - 2-(4)-④ v 各種掲載・報道など(新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、web 等) p.48
 - 2-(4)-④ vi 特別協力と有料広告 p.48
 - 2-(4)-④ vii シンポジウムほか、関連イベント p.49
 - 2-(4)-④ viii 広報せず掲載 p.50
 - 2-(4)-④ ix FM すず p.50
- 3 開催効果にかかる検証 p.51
 - 3-(1)効果把握の視点
 - 3-(2)開催効果の整理と分析
- 4 継続作品及び今後の事業展開等について p.55
- 5 次回にむけて p.57

■資料編

- ・奥能登国際芸術祭実行委員会組織図及び名簿(平成 30 年 3 月末現在)
- ・奥能登国際芸術祭 2017 来場者数(推計)
- ・奥能登国際芸術祭 2017 作品別来場者数(のべ人数)
- ・来場者アンケート集計結果
- ・住民アンケート集計結果
- ・「奥能登国際芸術祭 2017」入込数の概要
- ・「奥能登国際芸術祭 2017」開催の経済効果の概要

はじめに

「奥能登国際芸術祭 2017」は、2017(平成 29)年 9 月 3 日から 10 月 22 日までの 50 日間、日本列島のほぼ中央、日本海に突き出た能登半島の先端に位置する珠洲市全域を会場に、「奥能登・珠洲 15,000 人とともにつくる芸術祭」を標榜して開催した。

連日のように市内各地で秋祭りが行われ、まちが一年でもっとも活気づく季節に合わせての開催は、伝統文化と最先端の美術が響きあうアートの祭典として、また、日本の“さいはて”から最先端の文化を創造する試みとして、国内外から大きな注目を集めることとなった。国内外から参加した 39 組のアーティストによる、市内各地域の歴史や特徴、魅力、豊かさを表現した作品やパフォーマンスの数々は、当初の予想を上回る多くの来場者を本市へ呼び込むとともに、これまで思うように伝えることができなかった珠洲市の潜在力の高さを、より遠く広く伝えることにつながった。

また、国内はもとより、海外からも多くのサポーターの方々が来訪し、市民ボランティアとともに作品の制作準備や撤去、会期中の受付などに取り組む中で、本市を訪れた方々は珠洲市の魅力を十分体感し、同時に多くの市民にとっても、珠洲市の未来に可能性を感じ、新たな動きを生み出す機会となった。

本報告書は、北陸地域では初めての開催となった今回の芸術祭開催を振り返り、その概要を取りまとめるとともに、その成果と課題を明らかにし、今後の地域活性化に向けて一つの指針とすることを目的に編集し、関係者に提示するものである。

なお、本報告書の作成にあたっては、既存資料やこれまでの各種事業の実績報告のほか、開催にご協力いただいた各関係機関、奥能登国際芸術祭 2017 の総合ディレクション業務等の委託先である(株)アートフロントギャラリーからの提供情報や意見を基に取りまとめを進めた。また、成果の検証のため北陸先端科学技術大学院大学 敷田研究室が実施した各種アンケート調査(会期中に作品会場等で来場者を対象に実施した「来場者アンケート」及び「WEBアンケート」、会期後に実施した「市民アンケート」)の結果と、そこから導き出される経済波及効果にかかる各種データ等についても、検討・検証材料として記載したところである。

このほか、本芸術祭に関わった多くの方々から、今回の芸術祭について多種多様かつ貴重なご意見等を数多く頂戴し、検証作業における参考とさせていただいた。奥能登国際芸術祭 2017 の開催に関わった多くの方々、そして本報告書の制作にご協力いただいた関係各位に、ここにあらためて深く感謝の意を表すものである。

平成 30 年 3 月

奥能登国際芸術祭実行委員会

1 開催までの主な経緯

①平成 26 年度まで

- ・平成 25 年 1 月 北川フラム氏 来市
- 3 月 関係者有志が瀬戸内国際芸術祭を視察
- ・平成 26 年 3 月 「奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会」発足
- 4 月 市及び商工会議所関係者を中心に、中房総国際芸術祭「いちほらアート×ミックス」を視察
- 11 月 実行委員会が瀬戸内を視察
- ・平成 27 年 2 月 「奥能登国際芸術祭 キックオフシンポジウム」開催(ラポルトせず)

- 地域、殊に本市経済界の有志において、奥能登・珠洲での国際芸術祭開催に向けた取り組みが模索され、新潟県越後妻有地域の「大地の芸術祭」、「瀬戸内国際芸術祭」の芸術祭のディレクターである北川フラム氏を招聘しての学習会、打ち合わせ会等を継続的に開催したほか、千葉県市原市、瀬戸内など国内の芸術祭開催地への視察も実施した。
- 平成 26 年 3 月、「奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会」が発足し、基本計画の策定を開始。平成 27 年 2 月には、ラポルトせずにおいてキックオフシンポジウムを開催し、事例報告やパネルディスカッションを通して、開催に向けた取り組みのスタートを国内外に向けて広く発信。
- 加えて、同年 3 月には一般財団法人 地域活性化センターの「ふるさとイベント大賞」において「奥能登珠洲の秋祭り」と『ヨバレ』が最優秀賞(総務大臣表彰)を受賞したほか、能登半島地震復興基金による「能登の魅力創出事業」に「アートで元気な奥能登を創る」プロジェクトが採択されるなど、開催準備に向けての動きが加速。

②平成 27 年度

- ・平成 27 年 4 月 珠洲市役所内に「奥能登国際芸術祭開催準備室」を設置
- 5 月 「奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会」を発展的に解散し、「奥能登国際芸術祭実行委員会」に改編
- 5～6 月 地区説明会(市内 10 地区)
- 7 月 新潟県越後妻有「大地の芸術祭 2015」に事務局スタッフを研修派遣
- 8～9 月 先進地視察(新潟県越後妻有地域 合計 9 回)
- 9 月 「第 19 回ふるさとイベント大賞」最優秀賞(総務大臣表彰)
受賞記念講演(講師:文化庁長官 青柳正規氏)
- 9～10 月 秋祭り体験モニターツアー実施・検証作業
- 12 月 「北川フラムと語る会」開催(飯田わくわく広場)
- ・平成 28 年 2 月 「奥能登国際芸術祭 2017 シンポジウム」開催(ラポルトせず)

- 国際芸術祭の開催に向けた取り組みの深化・拡大に伴い、平成 27 年 4 月に市担当部署として奥能登国際芸術祭開催準備室を珠洲市役所内に設置。さらに、5 月には従来の「奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会」を発展的に解消し、新たに「奥能登国際芸術祭実行委員会」に改編。
- 5 月下旬～6 月下旬、市内 10 地区を対象に北川総合ディレクターの出席のもと、地区説明会を順次開催。



- 8 月～9 月にかけて、市内各種団体や公募市民を対象に新潟県越後妻有地域への先進地視察を実施。



- 9 月 17 日、文化庁の青柳長官による講演会を開催。
- 7 月及び 9 月の 2 回、新潟県越後妻有地域「大地の芸術祭」への事務局スタッフ派遣研修を実施。
- 秋祭りシーズンに、芸術祭開催に向けた市内での機運醸成と、来訪者への受け入れ・もてなし態勢の構築を図るため、アートを活用した地域活動への支援(蛸島町まちなみライトアップ)、市内 2 か所(狼煙町・馬縞町)における秋祭り体験モニターツアーを実施。
- 7 月以降、参加アーティスト候補者の現地視察が開始。



- 平成 28 年 2 月にはラポルトすずで「奥能登国際芸術祭 2017 シンポジウム 奥能登・珠洲 15,000 人とともにつくる芸術祭」を開催し、北川総合ディレクターによる基調講演・企画発表のほか、参加者が6つの分科会に分かれて芸術祭トーク(座談会)を実施。
- このシンポジウム開催に合わせて、公式ホームページの立ち上げや SNS 連動での公式広報プロジェクト「おくノートプロジェクト」が本格始動し、言葉と写真の投稿による参加型プレイベント「わるないわ～奥能登珠洲 写真と言葉の投稿コンテスト」もスタート。



③平成 28 年

- ・平成 28 年 4 月・7 月 「コドグラファー写真ワークショップ」開催
- 6 月 「珠洲特産品リデザイン事業」開始
フリーペーパー「おくノート」発行(9 月、12 月、29 年 3 月)
- 8 月 「瀬戸内国際芸術祭 2016」に事務局スタッフを研修派遣
- 9 月 公募ツアー(作品公募現地見学会)開催
市民によるプレイベント「珠洲 100 プロジェクト」開催
- 9～10 月 祭り体験モデルツアー等実施
(宝立町春日野、大谷町、三崎町寺家、蛸島町、馬縹町)
- 10 月 作品公募(10/17～10/31)
瀬戸内国際芸術祭視察(役員、事務局)
- 11 月 市内ショッピングセンターにて PR 出張窓口を開設
- ・平成 29 年 1 月 「北川総合ディレクターと市民の車座トーク」開催
石川県知事表敬訪問
- 2 月 「奥能登国際芸術祭 2017 企画発表会」開催
- 3 月 サポータースタディーツアー

- 平成 28 年 2 月からスタートした「おくノートプロジェクト」によるフリーペーパー等の企画・取材編集・発行、公式ホームページ等を通しての情報発信のほか、「わるないわ～奥能登珠洲言葉と写真の投稿コンテスト」、「コドグラファー写真ワークショップ」等を通して、市内外、子どもから大人までの幅広い年代に向けた普及啓発活動を積極的に展開。



- 9 月からの秋祭りシーズンには、メディアや旅行エージェント、首都圏の留学生等を市内 5 か所(宝立町春日野、大谷町、三崎町寺家、蛸島町、馬縹町)での秋祭り体験モデルツアー等で受け入れしたほか、マスコミ取材への対応、テレビ・ラジオ等への出演や市内外の各種イベントへの参加等が、従来に比べて大幅に増加。



- 市内の飲食店・宿泊施設を中心とした『「食」プロジェクト』による市内飲食一斉メニュー開発がスタートし、企画会議や試食会のほか、関係者による新潟県越後妻有地域への現地視察も実施。
- 会場候補地における制作準備として、地域住民やボランティアによる清掃作業等も一部開始されたほか、7 月以降は参加アーティスト等による市内現地視察も本格化。



- 会期中の運営を担うサポーター組織の立ち上げに向けて、北川総合ディレクターを交えたワークショップや検討会を開催。

- 市内の有志や青年リーダー100 人会議(珠洲市青年団協議会、珠洲青年会議所、珠洲ロータリーアクトクラブ、能登里山里海マイスターネットワークで構成)が中心となり、開催 1 年前となる 9 月に市民発信でのイベント「珠洲 100 プロジェクト」を、ラポルトすずを会場に開催。



- 作品制作に向けた取り組みとして、9 月に作品の公募開始に先立つ形で現地ツアーを企画・実施。10 月後半に作品公募を行った結果、総数で 226 作品の応募があった。
- 芸術祭開催を機に地元特産品の充実を目指す「リデザイン事業」も 6 月以降、本格的にスタート。
- 8 月には事務局スタッフ 2 名を瀬戸内国際芸術祭へ研修目的で派遣。
- 平成 29 年 2 月にはラポルトすずにおいて「奥能登国際芸術祭 2017 企画発表会」を開催。「わるないわ〜奥能登珠洲」の応募作品 1,296 作品からの「奥能登珠洲魅力 100 選」選出や総合ディレクターによる企画発表、参加アーティストの紹介等が行われた。



- シンポジウム開催日から公式サポーターの登録が開始されたほか、3 月にはサポーター希望者を対象とした市内スタディツアーも開催。



④平成 29 年度

- ・平成 29 年 4 月 市担当部局を「奥能登国際芸術祭推進室」に改称
集落説明会(集落と作家のお見合い)、作品制作準備(会場清掃等の準備作業)本格化
- 5 月 「奥能登国際芸術祭開催記念 北陸アートフォーラム」開催(北國新聞赤羽ホール)、作品鑑賞パスポート販売開始
- 6 月 「日置ハウス」運営開始
- 7 月 プレイベント「奥能登国際芸術祭 2017 開幕直前展」開催(渋谷ヒカリエ)
公式ガイドブック発売開始、公式グッズお披露目
- 8 月 作品制作が本格化
「奥能登国際芸術祭 2017 開幕直前スペシャルトーク」開催(金沢 21 世紀美術館)
- 9 月 奥能登国際芸術祭 2017 開幕
- 10 月 奥能登国際芸術祭 2017 閉幕
奥能登国際芸術祭 2017 ふり返りの会
- 11 月 作品の撤収、移設等が終了
- ・平成 30 年 2 月 実行委員会役員会、総会開催

- 4 月、市担当部局を従来の奥能登国際芸術祭開催準備室から「奥能登国際芸術祭推進室」に改称。事務局スタッフの増員を図った。
- 作品が設置される市内各集落に対し、アーティスト本人や作品制作を受託するアートフロントギャラリーのスタッフ同席による集落説明会(地元集落と参加アーティストとの「お見合い」)を順次開催し、地域における理解促進とともに、作品制作や以後の会場運営等にかかる協力を要請した。



- 5 月末には北陸地域、殊に県都・金沢方面を中心とした来場者の確保を目的として、金沢市内においてフォーラムを開催するとともに、作品鑑賞パスポートの販売を開始。以降、県内外における作品鑑賞パスポートの販売促進及び芸術祭開催にかかる企業等への寄付・協賛等の依頼が本格化した。

- 7月以降は市内各地域において作品制作が佳境を迎えた。国内からの学生インターンや海外からのボランティアスタッフ、市職員による支援作業が進められ、その結果として無事、9月3日からの開幕に至ることができた。



- 会期中は比較的、天候にも恵まれ、週末やシルバーウィーク等の連休を中心に、当初の予想を上回る来場者にお越しいただくことができた。初開催でもあり、運営スタッフの確保・配置には苦心するところも多かったものの、心配された大きなトラブルや事故等も発生せず、10月22日に閉幕を迎えることができた。



2 開催結果に対する検証

2-(1) 会期中の推計来場者数について

2-(1)-① 作品来場者数

今回会期中における推計来場者数は、以下のとおり 68,665 人となった。

(のべ人数については、各受付における人数を合計したもの。)

i. 作品来場者数(推計値)

期 間	来場者数推計値(のべ人数)
全期間鑑賞者数(9月3日～10月22日)	68,665人 (のべ 392,244人)
前半鑑賞者数(9月3日～9月27日)	27,016人 (のべ 152,523人)
後半鑑賞者数(9月28日～10月22日)	41,649人 (のべ 239,721人)
最大鑑賞者数(10月8日)	4,949人 (のべ 28,380人)
最大週末鑑賞者数(10月7～9日)	11,042人 (のべ 64,316人)

※作品来場者数(推計値)について

会期中、実際に何人が芸術祭来場のため本市を訪れたのか、その実人数を直接的に計測することは困難なことから、できるだけ実数と近いものになるように、作品展開の状況から市内の作品設置エリアを4ブロックに分類し、各ブロックの中で最も鑑賞者数が多かった作品の受付人数を合計し、当日の作品鑑賞者数として集計した。

なお、各会場での鑑賞者数は以下のとおり (推移等のグラフについては資料編を参照)。

ii. 会場別作品鑑賞者数 (のべ人数：推計値)

(単位：人)

No.	会場	作家名	来場者数	備考
1	旧清水保育所	塩田千春	20,532	
2	赤神の小屋	村尾かずこ	13,846	受付未設置期間あり
3	笹波海岸	深澤孝史	—	受付未設置
4	木ノ浦海岸	よしだぎょうこ + KINOURA MEETING	14,795	受付共同設置
5		アローラ&カルサディージャ		
6	シャク崎	鴻池朋子	—	受付未設置
7	旧日置公民館	さわひらき	12,198	
8	日置ハウス	キジマ真紀	—	受付未設置
9	栗津の海岸	小山真徳	—	受付未設置
10	森腰の古民家	岩崎貴宏	14,460	
11	旧小泊保育所	Ongoing Collective	11,008	

12	鉢ヶ崎わくわく夢らんど周辺	バスラマ・コレクティブ	535	受付未設置期間あり
13	旧蛸島駅	エコ・ヌグロホ	16,156	
14	旧蛸島駅周辺	トビマス・レーベルガー	15,107	
15	蛸島の旧漁業倉庫	ウー・ジーツォン（吳季聰） +チェン・シューチャン（陳淑強）	14,354	
16	正院の旧銭湯	麻生祥子	17,050	受付共同設置
17	（恵比寿湯）	井上唯		
18	旧飯塚保育所	ひびのこづえ	17,239	
19	本江寺の倉庫	角文平	14,117	
20	西中町の蔵	田中信行	12,542	
21	旧珠洲駅	ギムホンソック	11,534	
22	飯田の古民家	金沢美術工芸大学アートプロジェクトチーム[スズプロ]	19,081	
23	飯田の旧店舗	鴻池朋子	16,191	
24	飯田の旧店舗（JUEN）	吉野央子	17,345	
25	旧映画館（飯田スメル館）	南条嘉毅	16,992	
26	ラポルトすず	カ五山一加藤力、渡辺五大、山崎真一	15,868	
27	旧飯田駅	河口龍夫	14,814	
28	飯田の旧レストラン	EAT&ART TARO	16,638	
29	寺社の舟小屋	眞壁陸二	14,411	
30	旧上戸駅	ラックス・メディア・コレクティブ	2,677	受付未設置期間あり
31	旧旅館（宝湯 2 階）	石川直樹	14,462	
32	旧鶴飼駅	アデル・アブデスメッド	12,171	受付未設置期間あり
33	見付海岸	リュウ・ジャンファ（刘建华）	9,628	受付未設置期間あり
34	旧上黒丸小中学校	中瀬康志	8,948	
35	南山	竹川大介	—	受付未設置
36	北山	坂巻正美	7,545	
37	笹波口・能登洲崎・ 珠洲川尻・正院	アレクサンドル・コンスタンチーノフ	—	受付未設置
	合 計		392,244	

2-(1)-② イベント来場者数

会期中、各会場においては作品展示のほか、芸術祭主催・共催イベント等もあわせて開催された。その主な来場者数については、以下のとおり合計 2,595 人となった。

イベント来場者数

イベント名	来場者数
ひびのこづえ×スズズカ (9月16、17、18、23、24、30日、10月1、7、8日：全9回)	1,827人 (平均203人/回)
和泉流宗家 incl.三宅藤九郎による「寿受狂言の会」 (9月9日)	228人
さいはての「キャバレー準備中」キャバレーイベント (9月9、17日、10月7、21日：全回)	209人 (平均52人/回)
No.39 鬼太鼓座「 <small>あえ ことしるべ</small> 餐の事導」(10月14日)	331人
イベント合計	2,595人

No.38 炙り Bar (9月9、10、23、24日、10月7、8日：全6回)	1,295人 (平均215人/回)
---	----------------------

(参考) 会期中の鑑賞者のべ人数 396,134人

作品鑑賞者 392,244人＋イベント来場者 2,595人＋炙り Bar 1,295人

2-(2) 財政面における検証

2-(2)-① 作品鑑賞パスポート等の販売状況

今回の芸術祭では、「一般」・「高校生」・「小中学生」の3種類に分けて作品鑑賞パスポートを発行・販売した。平成29年5月27日に金沢市で開催した北陸アートフォーラムを皮切りに販売を開始したが、市民に対しては、市内各地区の区長会を通じて全戸に案内を回覧し、各家庭に購入を呼び掛けたほか、市内小中学生については珠洲市教育委員会が一括購入して事前配付を行った。

また、会期中は作品鑑賞パスポートを持たない来場者向けに、各会場において個別鑑賞券の発行・販売も行った。

i. 作品鑑賞パスポート販売状況

	一般 (前売 2,000 円/ 当日 2,500 円)	高校生 (前売 800 円/ 当日 1,000 円)	小中学生 (前売 300 円/ 当日 500 円)	合 計
前売券	17,149 冊	94 冊	1,082 冊	18,325 冊
	34,063,000 円	75,200 円	324,570 円	34,462,770 円
(内、パスポート付プラン)	(175 冊)	(0 冊)	(1 冊)	(176 冊)
	(315,000 円)	(0 円)	(270 円)	(315,270 円)
当日券	9,454 冊	98 冊	642 冊	10,194 冊
	23,507,250 円	97,400 円	320,150 円	23,924,800 円
(内、パスポート付プラン)	(107 冊)	(0 冊)	(1 冊)	(108 冊)
	(240,750 円)	(0 円)	(450 円)	(241,200 円)
(内、金沢 21 世紀美術館友の会)	(202 冊)	(3 冊)	(4 冊)	(209 冊)
	(404,000 円)	(2,400 円)	(1,200 円)	(407,600 円)
合 計	26,603 冊	192 冊	1,724 冊	28,519 冊
	57,570,250 円	172,600 円	644,720 円	58,387,570 円

※「パスポート付き旅行商品」、「パスポート付き宿泊プラン」は 1 割引きで販売。

※委託販売先には、委託手数料 10%にて販売した。

※金沢 21 世紀美術館(以下「21 美」とする。)と契約し、21 美「友の会」会員は会期中も前売り料金でのパスポート 購入を可能としたほか、パスポート購入者についても会期中の 21 美の企画展示について、団体料金での割引入場ができることとした。

ii. 個別鑑賞券販売状況

券種	枚数 (金額)
一般 (300 円)	21,690 枚 (6,507,000 円)
一般再入場 (200 円)	4,049 枚 (809,800 円)
小中高生 (200 円)	742 枚 (148,400 円)
小中高生再入場 (100 円)	259 枚 (25,900 円)
合 計	26,740 枚 (7,491,100 円)

【成果と課題】

- パスポートのデザインを、実際の入国パスポート(渡航旅券)を意識して作成し、内容もスタンプラリーのほか、パスポート特典一覧や交通・インフォメーション情報、祭りカレンダー等を合わせて掲載した。その「見やすさ」や「使いやすさ」から、購入者にも好評であった。

- 当初計画での販売目標冊数は 2 万冊であり、結果的には目標を達成したものの、会期初日を迎えた時点での販売数は約 1 万 7 千冊であり、前半は特に不安感がある中での販売となった。
- 順次、委託販売先を増やし、販売経路も当初の想定より拡大していった。しかし、委託販売開始の遅れによる委託先の未整理によって、販売の依頼が重複した点や、販売数などの途中経過が掴みにくく販売目標の達成度や増刷の見通しが立てづらくなった点は反省すべき点である。
- 発売当初、特に市内においてはパスポートの必要性が理解されておらず、販売の際に説明に苦勞した。基本的に市内一円に存在する作品は有料であり（運営上の観点等から受付が設置されておらず、料金徴収ができない箇所もあるが）、鑑賞のためにはパスポートが必要となることを事前に十分説明しておく必要があった。
- 会期中は個別鑑賞券での入場も多く、運営側では連日、必要数の受付への手配に苦心した。個別鑑賞券によって各会場の来場者数が伸びることは嬉しい反面、半日や 1 日単位での来場者の鑑賞行動を考えると、単券購入よりもパスポート購入の方がお得であるといったアナウンスについても、更に必要であると感じた。
- 初回であり、特に市外での購入者開拓においては手探り状態であった面は否めない。狙いとする所やニーズのある所へと販売網を広げていくことができるよう、今回の営業活動で培ったネットワークと経験を今後に生かしていく必要性を痛感した。

2-(2)-② 寄付金・協賛金について

寄付金・協賛金については、平成 28 年 8 月から公式ホームページに関連情報を掲載するなど、市内外に向けて広く募集を行った。募集開始当初はアートイベントに関心のある企業や、県外の珠洲市出身者等からの寄付が目立ったものの、開催年となる平成 29 年を迎えてからは、実行委員会をはじめ市内経済界による取り組みも本格化し、結果として県内企業等を中心に下記のとおり、目標額の 8 割を超える協賛金が集まった。

また、作品制作に際して、参加アーティストやその作品制作自体に協力・協賛する企業等からの、資材提供をはじめとした現物協賛も行われたほか、会期終了後において、会期中での営業活動による収益の一部を実行委員会に寄付する個人や団体も見受けられた。

■寄付・協賛金（平成 28 年度・29 年度合計）	45 件	16,097,000 円
	役務協賛	10 件 8,202,400 円相当

i. 寄付

年 度	件 数 (金 額)
平成 28 年度	5 件 (690,000 円)
平成 29 年度	12 件 (2,307,000 円)
合 計	17 件 (2,997,000 円)

ii. 協賛

年 度	件 数 (金 額)
平成 28 年度	1 件 (50,000 円) 役務協賛 2 件 (902,499 円相当)
平成 29 年度	27 件 (13,050,000 円) 役務協賛 8 件 (7,300,000 円相当)
合 計	28 件 (13,100,000 円) 役務協賛 10 件 (8,202,400 円相当)

2-(2)-③ 助成金・補助金について

奥能登国際芸術祭の開催に向け、平成 27 年度から 29 年度の 3 年間に於いて珠洲市及び奥能登国際芸術祭実行委員会等が交付を受けた助成金・補助金については、以下のとおりである。

■平成 27 年度

- ・震災復興地域づくり総合支援事業補助金（公益財団法人能登半島地震復興基金）
7,151,000 円

■平成 28 年度

- ・震災復興地域づくり総合支援事業補助金（公益財団法人能登半島地震復興基金）
4,767,000 円
- ・文化と芸術による地域振興の助成（公益財団法人福武財団）
1,800,000 円

（珠洲市への補助）

- ・文化芸術振興費補助金（文化芸術による地域活性化・国際発信推進事業）（文化庁）
7,004,000 円

■平成 29 年度

- ・文化と芸術による地域振興の助成（公益財団法人福武財団）
1,800,000 円
- ・2017 年度上半期芸術文化助成（公益財団法人野村財団）
350,000 円

(珠洲市への補助)

- ・文化芸術振興費補助金（文化芸術創造活用プラットフォーム形成事業）（文化庁）
59,200,000 円
- ・地方創生推進交付金
22,241,000 円

2-(2)-④ 収支の状況（奥能登国際芸術祭実行委員会会計）

奥能登国際芸術祭の開催に要した実行委員会予算については、平成 26 年度から 29 年度までの 4 年間で 442,008,972 円であり、収入の中で大きな割合を占めるのは珠洲市からの負担金である。その原資となったのは珠洲市地域振興基金であり、負担金として開催準備事業や PR をはじめとした開催推進事業に充当されたほか、作品会場整備も含めた基盤整備事業などに対しても充当が成されてきた。また、こうした市負担金の実質上、実行委員会会計における運転資金としての役割を果たしているのが実態であり、各年度末には収支を精算の上、残余の金額については市会計へ戻し入れしている。

2-(3) 運営体制における検証

2-(3)-① 実行委員会体制

- ・平成 26 年 3 月に民間主導のもと「奥能登里山里海国際芸術祭実行委員会」が発足したが、翌 27 年 4 月における市開催準備室開設も踏まえ、官民一体となった推進体制の構築を図るべくこれを発展的に解散し、同年 5 月、「奥能登国際芸術祭実行委員会」へと改編した。
- ・開催に向けて具体的に取り組みを進めるにあたり、よりスピーディーな意思決定と機動的な事業実施を求める観点から、議決機関たる「実行委員」については従前の組織よりも少数の定員 30 名を上限とし、このほか、趣旨に賛同する「会員」がそれぞれ専門分野である「地域」・「議員」・「産業」・「学術文化」・「観光」・「行政」の 6 つの「部会」に分かれて所属・登録する形とした。これにより、市内各界・各分野における各種団体等のリーダーが実行委員に就任するとともに、従前の組織における所属会員の多くは、新たに各部会に分かれての会員となった。
- ・こうして成立した新たな実行委員会では、各年度における総会のほか、適宜・随時に役員会を開催し、各種企画等の立案・検討や進捗確認を行うなど、実務的な議論による運営を行ったほか、開催年度である平成 29 年度には、石川県知事を名誉顧問に迎えるなど、運営体制の充実を図った。

【成果と課題】

- 従前の組織に比べ、意思決定のスピードが上がり、速やかな事業展開に資すること

ができた。

- さまざまな情報共有の面からも、役員会等の開催頻度を高めるべきであったとの指摘もあった。
- 部会制としたものの、実際にはおもてなしを担当する「観光部会」を除いては各部会での活動はあまり活発ではなく、事業推進の上では役員会での協議が中心と成らざるを得なかった。芸術祭を取り巻く課題は広い分野で多種・多様であるため、より実践的できめ細やかな取り組みを行うためにも、部会制の活用が課題である。

2-(3)-② 事務局体制

- ・平成 27 年 4 月、市の担当部局として「開催準備室」が発足し、市庁舎 4 階小会議室を事務所に、兼務ながら室長以下 4 名の職員が配置された。これに庁内関係各課長（産業振興課、観光交流課、教育委員会事務局）及び商工会議所の担当職員を合わせ、新たに実行委員会の事務局を構成することとなった。
- ・事業の進捗から、平成 28 年 5 月 17 日からは遊休施設となっていた飯田町の旧消防庁舎へと事務所を移転し、会期中も拠点に活動した（会期終了後の平成 29 年 11 月 24 日からは市庁舎 4 階に事務所を戻した）。
- ・事務局（主に推進室及び商工会議所の担当職員）においては、基本的に毎週 1 回（毎週月曜日）にスタッフ全員参加での定例会議を開催したほか、毎月 1 回（各月の最終月曜日）は拡大会議（市関係各課の職員とのタスク会議）を行うなど、状況の把握と情報共有に努めた。

【成果と課題】

- 事務局のうち、メインとなる推進室及び商工会議所の担当職員（いわゆる「プロパー職員」）の間においては、毎週の定例会議を中心に状況確認と協議を行い、会期中も含めて概ねスムーズな情報共有や意思決定が図られた。
- その反面、関係各課等との拡大会議では、日々専属で活動し、事業進捗等にかかる各種情報も把握しているプロパー職員側での進行が中心となってしまい、タスクごとの議論よりも、一方的な確認・伝達会議のようになることも多かった。幅広く、自由闊達な意見と情報交換の場にできなかったことは、大いに反省が必要である。
- 事務局運営の観点から、特に会期直前及び会期中におけるマンパワーの不足について、日々実感させられた。会計事務から準備作業に至るまで、企画財政課を中心とした市スタッフの応援・協力によって何とか乗り切ることができたものの、前述の関係各課等によるタスクチームを有効活用する（協議体としてのみでなく、実務上における関わりを増やしていく）、または会期直前・会期中などの一定期間、事務局

の専属スタッフを増員するなど、何らかの対応が必要になると考える。

2-(3)-③ 行政職員等の連携

- ・今回の芸術祭の開催に際し、作品会場として市内の遊休公共施設の利活用が求められた中で、遊休施設を所管する関係課室ではその利活用に向けて手続き等を進めたほか、施設清掃等のボランティア作業においても率先して協力を行った。
- ・作品制作が本格化した平成 29 年 7 月末からは、連日、各課室から数名の職員がサポーターとともに市内各地で展開された制作作業に業務として従事することとなった。
- ・会期中には、各課室が割り当てられた地区ごとに作品受付やサポーターの送迎、駐車場整理等の業務を担当し、円滑な運営を目指して取り組んだ。
- ・会期終了後、開催準備・運營業務等に従事した各課室に対し、今回の取り組みにかかる問題点や改善策、感想等を把握することを目的として、アンケート調査を実施した。その集計結果については、以下のとおり。
- ・会期中は、ともに事務局を構成する珠洲商工会議所スタッフも週末・祝日を中心に、公式インフォメーションセンター等で業務にあたった。

【成果と課題】

- 会期中も含め、平日はサポーターや地域ボランティアの確保が難しく、毎日一定数の動員が可能な市職員の果たした役割には大きなものがあった。
- その反面、職員アンケートにおいても、情報提供の遅れや、業務内容の説明不足等が指摘されるなど、効率的な運営について課題を残す結果となった。

i. 市職員等の動員について

■市職員の動員について（のべ人数）

	作品制作期	会期中	作品撤去期	合計
市職員動員数	38 人	作品受付 1,108 人 その他 116 人	9 人	1,271 人

■商工会議所職員の動員について

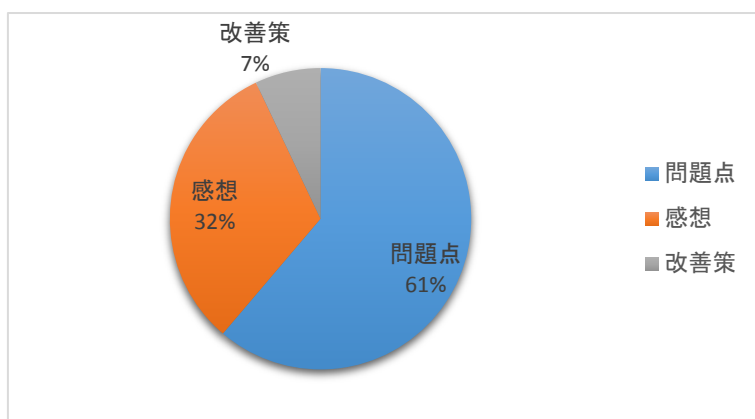
- ・公式インフォメーションセンター（会期中の土日祝） 18 人
- ・作品受付（10 月 22 日） 6 人

ii. 市各課室アンケートについて（結果）

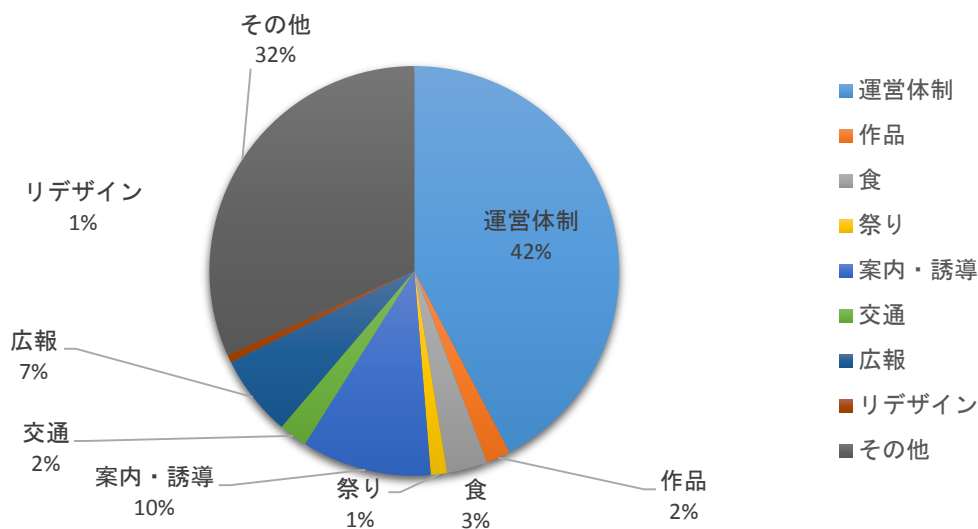
- ・回答期間 平成 29 年 11 月 9 日～30 日
- ・回答コメント総数 312 件
- ・集計方法
 - 項目・・・各回答コメントを「問題点」、「改善策」、「感想」の 3 項目に分類
 - 該当分野・・・回答コメントの内容から、以下の 9 分野に分類
 - 1) 運営体制、2) 作品制作、3) 食、4) 祭り、5) 案内・誘導、6) 交通、
 - 7) 広報、8) リデザイン ※関連グッズ製作、地元産品の包装リニューアル等
 - 9) その他 ※上記 1～8 に当てはまらないもの

【集計結果】

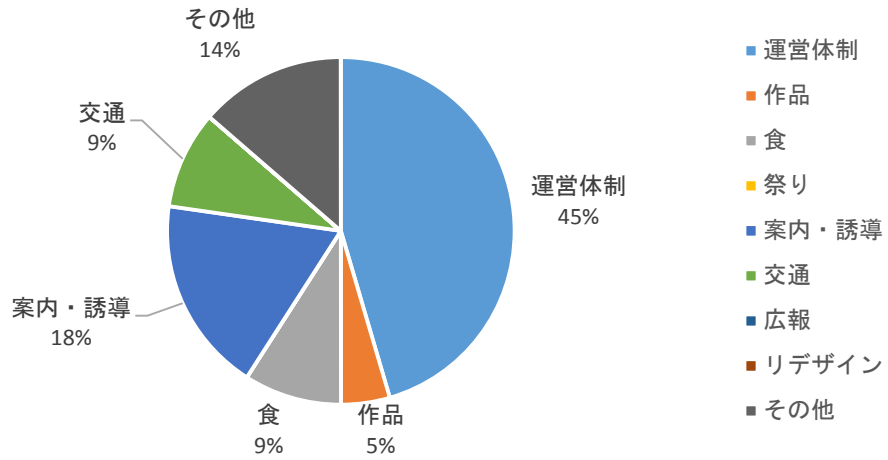
- 業務に従事した職員からの意見等の種類について
回答内容について、「問題点」・「改善策」・「感想」の 3 つに大別したものを。



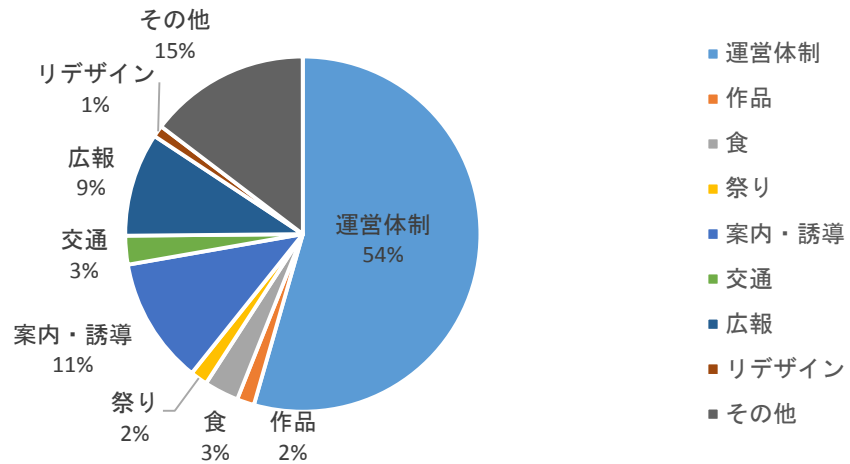
- 意見等の該当分野について



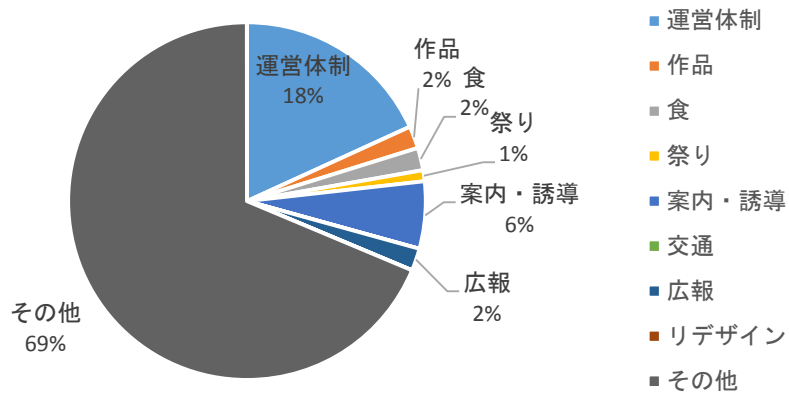
●改善策にかかる提案分野について



●運営等における問題点について



●感想について (分野別)



2-(3)-④ サポーター・ボランティアや地域住民との協働

- ・平成 27 年 6 月以降、延べ 6 回のワークショップを実施しながら、初回となる奥能登国際芸術祭の準備・運営等を担うボランティアサポーター（以下、単に「サポーター」という。）や地域住民の参画について呼びかけを行った。
- ・平成 29 年 2 月の企画発表会を契機にサポーター登録を開始。開幕が近づくにつれて登録者は徐々に増加し、最終的には合計 430 人にのぼった（登録者の出身地内訳は別紙のとおり）。特に開幕直前の制作作業が最盛期を迎える頃には、CIEE や香港大学、香港演芸大学等の海外ボランティアのメンバーも参加した。
- ・作品展開場所を有する市内集落については、開催年である平成 29 年 4 月以降、可能な限り参加アーティストと制作を担当するアートフロントギャラリーの同席を求めながら、集落説明会を実施した。これがきっかけとなって、サポーター登録までは行わないものの、自分たちの集落にある作品の制作や運営・管理に関わろうという地域住民の動きが生まれてきた。
- ・こうした地域住民と参加アーティストやサポーターとの協働によって制作・会場運営が行われたことで、来場者からは「会場でのやり取りが印象に残った」など地域全体を舞台とした地域芸術祭の魅力を感じていただくことができた。
- ・会期中は毎朝 8 時から、ラポルトすず前（雨天時はロビー）で朝礼を行い、サポーターやスタッフの配置、確認事項の伝達等を行った。事務局（サポーター担当）からは毎日、サポーターやスタッフ向けの必要情報が掲載された「SUZU レター」が発行され、好評であった。

【参考】「集落説明会」の開催 ～作品制作にかかる説明・協力依頼のプロセス～

- 1) アーティストによる現地視察
- 2) アーティストからのプラン提出
- 3) プラン・作品展開場所の決定
- 4) 集落との顔合わせ（集落説明会）・・・平成 29 年 4 月～8 月まで、順次開催
 - ・作品制作の概要説明
 - ・片付けや制作作業への協力依頼
- 5) 作品展開集落に対する依頼・協議（地区担当課室）…平成 29 年 8 月下旬
 - ・受付や作品管理にかかる具体的な協力体制等について協議

※協力可能な集落は、独自にシフト表を作成するなどして対応

※集落としての対応が難しい場合でも、住民個人が地域ボランティアとして活動したり、物販を行ったりするケースも発生。

※会期中、受付等の運営が難しい場合は、サポーターを重点配置して対応

【成果と課題】

- 作品制作等のタイミングから、早期に集落説明会が開催できないケースもあった。
- 作品展開に向けて、地域住民が不安を感じないように、可能な限り早期での開催や情報提供を図るべき。「早いタイミングでの相談であれば、可能な対応もあった」との指摘もあり、大きな反省点である。
- 市内全域が対象であり、各作品の制作時期も重複してくるため、集落説明会の日程調整が難航した。
- 今回の「集落説明会」は、あくまでも作品設置集落を対象に実施した。より多くの市民の参画を求める上では、隣接集落との共同開催や地区単位での実施も必要であると思われる。
- 初回であり、当初は受付や作品会場のイメージが地元には十分伝わっていなかった。会期中の広報・PR 面においても、こうした様子を広く伝えることで、各地区、各会場での更なる盛り上げへつなげることができたのではないかと思われる。
- 予想はされていたものの、平日のサポーターや地域ボランティアの確保が大きな課題であった。サポーター説明会は、東京で1回、金沢で1回開催したが、市外のサポーター募集の呼びかけを早期から積極的に行う必要があった。

●サポーターの募集や運営・管理に関わるスタッフの所感等については、以下の通り。

サポーター募集について

- ・ 今後は、東京や金沢での説明会回数の増加や富山県や福井県、隣接市町での説明会の実施など、説明会の充実が必要になると思われる。
- ・ 活動一ヶ月前前後のサポーター登録が多かったことから、説明会の時期についても今回の登録時期を参考に検討する必要がある。
- ・ 遠方から来る人の動きを想定し、具体的な交通方法から活動までのスケジュールを詳しく説明してくれれば、参加しやすいとの声があった。（例えば、「東京から来る場合は、のと空港とふるさとタクシーの利用が便利」など。）

サポーター運営・管理について

- ・ 1人で作品受付をする場合、お昼休憩やトイレなどの時間をとれないため、トイレ休憩や昼食休憩をとれるよう遊撃隊（受付に常駐せず自由に動くことができるスタッフ）を増やすべきであった。また来場者の多い週末は2人体制が望ましい。
- ・ 初参加の市外サポーターへのフォローが足りなかった。とくにパスポート／個別鑑賞券などの金券類については、朝礼でのレクチャーなども必要であった。
- ・ サポーター登録をせずに直接受付に入る地元有志サポーターが実際に現場に来ているのか把握できないことが何度かあった。スタッフが巡回して確認していたが、地元のシフトを誰が管理しているのか明らかにする必要があるように感じた。
- ・ シフトを出して、手伝っていただいた地元サポーターの方（例：旧清水保育所など）は名前や顔を把握することができたが、シフトがなく手伝っていただいた方の把握が難しかった。できるだけ顔と名前を[見える化]できるよう、日報に地元の方の名前を記入できる欄を設け、記録に残すよう工夫をすることで、行き違いなどを避けることができたように思う。
- ・ 会期中の平日に参加するサポーターが不足しているため、市内でのサポーター活動の認知をあげるために、ネットだけではなく口コミなどで広げる必要性を感じた。
- ・ 遊撃隊は常に忙しく、人手不足であったため、サポーターの中から、遊撃隊を確保し遊撃隊を増やした運用ができると良い。
- ・ 会期終盤から、寒さ対策が迅速に対応できなかった。各作品の寒さ対策の必要性を早期に把握し、前日に防寒具の必要性などを知らせられるような運営が好ましい。
- ・ 屋外受付では簡易テントは建てたが、強風・強雨のときは受付をできる環境ではなくなっていたため、台風等の緊急時は、事前準備・当日対応を強化する必要があった。（強風の場合、テントが飛んだとの報告もあった。）
- ・ サポーター宿舎である日置ハウス（外浦エリア）と朝礼場所・活動報告場所（内浦エリア）の毎日の送迎がスタッフに大きな負担となったため、送迎専門のスタッフを確保するか、宿舎と朝礼場所・活動報告場所を同じ場所にするなど改善が必要。

2-(3)-④i 登録サポーター状況 (2017年12月31日現在)

登録者数	430人	うち事務局スタッフ3人・職員16人
参加者	290人	参加率…67.4%
男女比	男4:女6	男性175人:女性255人
登録国	6か国	日本・台湾・香港・ベルギー・オーストラリア・中国
地域別	市内140人	飯田46人(うち北陸電力25人)、上戸24人、若山12人、宝立12人、大谷11人、正院11人、蛸島10人、三崎7人、直5人、日置2人
	市外120人	金沢65人、輪島26人(うち石川航空学園19人)、能登町5人、能美5人、河北5人、白山3人、七尾3人、加賀2人、羽咋2人、野々市2人、小松2人
	県外154人	東京41人、大阪22人、神奈川16人、香川11人、長野8人、岡山・千葉6人、京都・兵庫5人 他
	海外在住16人	台湾9人、香港3人、ベルギー2人、オーストラリア1人、アメリカ1人(日本人)
時期	2017年2月のシンポジウムから登録開始 ピークは6月～8月(最高6月63人)	

※外国人の登録者数は、市内・市外・県外・海外在住を合わせて21人。

2-(3)-④ii サポーター活動人数

実働人数		作品制作	会期中	作品撤去	合計
サポーター登録者	市内	22	80	12	114
	市外	77	234	32	343
地元有志(登録なし)		64	176	8	248
海外ボランティア		16	0	1	17
合計		179	490	53	722
のべ人数		作品制作	会期中	作品撤去	合計
サポーター登録者	市内	36	124	13	173
	市外	312	486	39	837
地元有志(登録なし)		85	328	21	434
海外ボランティア		165	0	1	166
合計		598	938	74	1610

※海外ボランティアは、CIEE(ロシア・ウクライナ・フランス・チェコ・台湾)から8人、香港大学・香港演芸大学から8人が参加。

※市役所職員が作品制作、作品受付、作品撤去合わせてのべ1222人、商工会議所職

員が作品受付にのべ6人参加。

2-(3)-④iii 地元協力者について

サポーター登録の有無にかかわらず、地元による受付やおもてなし等での協力や、準備・撤収など自発的な活動が市内各地で見られた。

事務局が把握した活動のうち、その主なものは以下のとおり。

- ・旧清水保育所（大谷地区：作品No.1） 物販、案内等
- ・赤神の小屋（大谷地区：作品No.2） 作品受付
- ・森腰の古民家（三崎地区：作品No.10） 作品受付、物販
- ・旧小泊保育所（三崎地区：作品No.11） 作品受付、物販
- ・旧蛸島駅（蛸島地区：作品No.13） 物販
- ・旧銭湯（正院地区：作品No.16、17） 作品受付
- ・旧飯塚保育所（正院地区：作品No.18） スズズカ食堂、駐車場整理、案内等
- ・西中町の蔵（直地区：作品No.20） 作品受付
- ・飯田地区全作品（作品No.22～27） 作品受付、案内等
- ・寺社の舟小屋（上戸地区：作品No.29） 作品受付、案内等
- ・旧上戸駅（上戸地区：作品 No. 30） 作品受付、案内
- ・旧上黒丸小中学校（若山地区：作品No.34） ふるまい、物販、案内等
- ・北山（若山地区：作品No.36） 作品管理、案内等



2-(4) 個々の取り組みの検証

2-(4)-①案内体制

2-(4)-① i 公式インフォメーションセンター

奥能登国際芸術祭を訪れる多くの来場者に対する総合案内機能として、会期中にラポルトすず内の音ミュージアムに「公式インフォメーションセンター」を設置し、事務局スタッフ常駐のもと情報提供及び公式グッズ販売等を行った。公式インフォメーションでの来場者の反応はおおむね良好であった。

ラポルトすずのロビーには、「潮流—ガチャポン交換器」(作品 No.26)一が設置されていたため、インフォメーション機能と作品が隣接されることで、多くの人が訪れることとなったように思われる。

一方、来場者にとって入り口となる作品(外浦側は、作品 No.1 塩田千春『時を運ぶ船』、内浦側は、作品 No.33 リュウ・ジャンファ『漂移する風景』と作品 No.32 アデル・アブデスマッド『まも-な-く』)では、作品受付に加えて、インフォメーション的役割を担うこととなり、受付担当者には負担を強いることとなったことは、次回の運営での反省点である。

また、市外からの来場者にとっての交通結節点である「道の駅すずなり」においても、会期中は毎日、事務局スタッフが常駐して対応し、奥能登の玄関口である能登空港のロビーに案内パネルを置くことで、来場者への案内・広報を行った。

■公式インフォメーションセンター販売実績 (9月2日～10月22日)

分類	売上額	備考
公式グッズ	996,500円	浅葉克己デザイン
珠洲特産品リデザイン商品	1,974,530円	24品目
ガイドブック等書籍	659,200円	公式ガイドブック、公式マップ、英語版作品ガイド
作品鑑賞パスポート	2,672,900円	
レンタサイクル	97,300円	半日800円、1日1,500円
その他委託商品	1,074,632円	アーティストグッズ、書籍等
合計	7,475,062円	

2-(4)-① ii サイン看板

来訪者を案内するための仮設案内看板については、先進開催地での作成・設置例も参考に、主要道路沿いや作品会場近辺を中心に約440基を設置した。しかし、開幕当初から、設置箇所の誤りや誘導看板としての枚数の不足、距離等の必要情報が記載されてない等の苦情が非常に多く寄せられ、会期前半の段階で設置個所の増設、看板の記載内容の修正、距離等の内容について追加記載を行った。その効果もあって、案内看板自体に対する苦情は、会期が進むにつれて減少していった。

来場者の9割以上がレンタカー等、車の利用者であったことを考えると、補助的な案内看板の設置や会場近辺での案内体制の構築など、次回に向けた対応の充実が切に求められる。また、誘導計画の設計業務の必要性や、印刷業務と設置業務を別発注するなど、発注方法の検討や業者との位置等の照合など業務全体の抜本的な検討が必要である。

2-(4)-①iii 案内用ツール（ガイドブック・マップ）

案内用のツールとしては、公式ガイドブック、公式ガイドマップ、公式ウェブを作成した。

公式ガイドブックについては、作品情報とともに巡り方やバス時刻表、エリア別での立ち寄り・土産・飲食情報等を網羅し、さながら「本市全体でのガイドブック」のような内容となったことで、来場者のみならず、市民にとっても貴重な情報源になったものと思われる。

しかし、内容が充実した半面、作成には予想以上の時間を要し、結果として早期に販売することができなかったのは大きな反省点である。また、ガイドマップについては英語版を追加作成したが、こうしたインバウンド対応についても、一層の充実も含めて今後課題を残した。さらに、「公式ガイドマップでは載せきれない、しかし実際に知っていれば役に立つ」といったレベルでの地域情報や、住民が自主的に作成した案内用資料にかかる取り扱いなど、より利用者の立場に立った作成・配付が課題となった。

（公式ウェブについては、「2-(4)-④iii 公式ウェブの展開」にも掲載。）

■ガイドブック・ガイドマップ

単行本(ソフトカバー): 160 ページ

出版社: 現代企画室

ISBN-13: 978-4773817126

発売日: 2017/7/31

商品パッケージの寸法: 21 x 14.8 x 2.5 cm



■公式 web

(集計期間:2016年2月14日~2017年10月22日)

ページビューユーザー数:1,378,249(内リピーター52%)

地域内訳:日本 95% 金沢 17% 大阪 13% 名古屋 9% 新宿 7% 横浜 6%(ほか)、
台湾 1.4%、ロシア 0.66%、アメリカ 0.66%、香港 0.44%



奥能登国際芸術祭

お知らせ 概要 アーティスト 特集記事 応援する 巡る | 奥能登珠洲魅力ガイド [おくノト](#)

奥能登国際芸術祭2017は閉幕いたしました。ご来場ありがとうございました。

奥能登国際芸術祭
珠洲
SUZU 2017
OKU-NOTO TRIENNALE

最涯珠洲を語る

“忘れられた日本”を発見する

アーティストやサポーター等、芸術祭に纏わる人々が発見する奥能登珠洲の特長点を探るインタビューシリーズです。

	#11 Aya mermaid		#10 アーティスト 岩崎貴宏
	#09 アーティスト さわひらき		#08 湯宿さか本 主人 坂本新一郎
	#07 宗玄酒造株式 会社 濱田星太郎		#06 第41代 珠洲ローターアクトクラブ会長 納谷 春佳

→ もっと見る

2-(4)-② 交通システム

2-(4)-② i 作品案内バス「すずバス」

能登半島最先端に位置する過疎地域での芸術祭開催で、交通が不便な状況下において、初めての来市で地理に不安のある方や、公共交通でお越しの方などに作品を安心して鑑賞していただくための仕組みとして、会期中は凝縮して作品鑑賞ができる作品案内バス「すずバス」を運行した。午前 2 コース、午後 2 コースの 1 日合計 4 コースを運行するとともに、すべてのバスに地元ガイドが乗車し、作品及び地域情報を提供した。高齢者の利用も多く、また個性ある総勢 21 名の地元ガイドも好評であり、会期中は全日、合計 200 便を運行し、延べ 3,001 人の方にご利用いただいた。こうしたガイド付き周遊バスによるシステムも好評であった。運営面では、現場の状況が地元ガイドと事務局との間で共有されず、地元ガイド、事務局共に不安や来場者のクレーム対応が解決されないまま進行されていたことは反省点である。

「すずバス」運行実績

コース	利用者数
A (若山～大谷)	862 人 (9 月 407 人、10 月 455 人)
B (飯田～宝立～上戸)	609 人 (9 月 281 人、10 月 328 人)
C (正院～三崎～蛸島)	814 人 (9 月 386 人、10 月 428 人)
D (直～正院～日置)	716 人 (9 月 318 人、10 月 398 人)
合計	3,001 人 (9 月 1,392 人、10 月 1,609 人)

1 コース 1,500 円 / 全コース通し券 3,500 円 登録ガイド数 21 名



2-(4)-② ii レンタサイクル

今後の本市の観光における実証実験的な要素も含め、市内 4 か所にレンタサイクル(電動アシスト付き)システムを設置・実施した。各箇所には 10 台ずつ配置したものの、利用実態としてはそのほとんどが道の駅すずなりでの利用となった。道の駅すずなりに限定すれば、10 台のレンタサイクルすべてが利用された週末もあり、次年度以降の可能性を感じる結果となった。特に外国人や若い世代での利用が目立つ状況であった。貸出は、電動アシスト付き自転車で行い、利用料は半日 800 円、1 日 1,500 円とした。

貸出場所	件数
旧鵜飼駅	半日 9件 / 全日 0件
ラポルトすず	半日 101件 / 全日 11件
道の駅すずなり	半日 224件 / 全日 58件
珠洲ビーチホテル	半日 11件 / 全日 10件
合 計	半日 345件 / 全日 79件 (合計 424件)



2-(4)-②iii レンタカー利用状況

閉会後に取りまとめられた来場者アンケートによれば、来場者の交通手段においては自家用車に次いでレンタカー利用をあげる来場者が多い状況であった。これを踏まえ、会期を含む平成 29 年 9 月・10 月における珠洲市レンタカー利用者宿泊助成制度の実績は以下のとおり。

【珠洲市レンタカー利用者宿泊助成制度利用状況】

レンタカーを借りて市内で宿泊した方に、レンタカー1 台当たり 3,000 円/泊を助成
※年月については助成金申請日ベース

■ レンタカー利用宿泊者数

	平成 29 年	平成 28 年	対前年比
9 月	437 人泊	235 人泊	186.0%
10 月	481 人泊	276 人泊	174.3%
合計	918 人泊	511 人泊	179.6%

※助成金に該当するレンタカーに乗車し宿泊した人泊数。助成金申請人数ではない

■ レンタカー利用台数

	平成 29 年	平成 28 年	対前年比
9 月	223 台	118 台	188.9%
10 月	235 台	122 台	192.6%
合計	458 台	240 台	190.8%

2-(4)-②iv のと里山空港利用状況

のと里山空港発着の羽田ー能登便については、9～10月が対前年比で約5ポイント増加となり、地元紙などでは同時期に能登演劇堂(七尾市)で開催されたロングラン公演と並んで、奥能登国際芸術祭の開催が羽田便の利用者数を押し上げた要因の一つであると紹介された。

■羽田能登便搭乗数(搭乗率)

	平成29年	平成28年	対前年比
9月	14,383 (73.2%)	13,707 (68.8%)	104.9% (4.4ポイント増)
10月	15,703 (77.3%)	14,802 (72.0%)	106.1% (5.3ポイント増)
合計	30,086 (75.3%)	28,509 (70.4%)	105.5% (4.9ポイント増)

2-(4)-②v 珠洲特急バス利用状況

本市と県都・金沢を結ぶ公共交通の大動脈「珠洲特急線」。会期中は通常の1日8便のほか、朝早く金沢を出発する便と、夕方に珠洲を出発し、金沢駅から東京駅への最終の新幹線に乗り換え可能な便の2便を臨時増便して対応した。実績からは、金沢へは午前8時・及び13時台、珠洲へは14時台、17時台の便が大幅に増加したことが分かる。乗降実績の詳細は以下のとおり。

■珠洲特急バス利用状況

・珠洲発～金沢

	9月			10月			合計		
	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比
6:30	505	519	97.3%	470	543	86.6%	975	1,062	91.8%
6:40▲	382	422	90.5%	438	487	89.9%	820	909	90.2%
8:01	532	424	125.5%	587	529	111.0%	1,119	953	117.4%
9:40	549	491	111.8%	512	534	95.9%	1,061	1,025	103.5%
12:00▽	112	495	22.6%	140	494	28.3%	252	989	25.5%
13:20	626	503	124.5%	629	541	116.3%	1,255	1,044	120.2%
17:35※	258	-	-	334	-	-	592	-	-
合計	2,964	2,854	103.9%	3,110	3,128	99.4%	6,074	5,982	101.5%

※9月1日～10月22日 増便 ▲珠洲宇出津特急線 ▽乗り継ぎ便

・金沢発～珠洲

	9月			10月			合計		
	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比
9:07▽	148	452	32.7%	128	443	28.9%	276	895	30.8%
9:30※	299	-	-	406	-	-	705	-	-
10:40	472	447	105.6%	514	548	93.8%	986	995	99.1%
13:10	537	724	74.2%	500	763	65.5%	1,037	1,487	69.7%
14:50	590	358	164.8%	564	344	164.0%	1,154	702	164.4%
16:00▲	418	409	102.2%	417	471	88.5%	835	880	94.9%
17:20	392	125	313.6%	383	170	225.3%	775	295	262.7%
合計	2,856	2,515	113.5%	2,912	2,739	106.3%	5,768	5,254	109.8%

※9月～10月22日 増便 ▲珠洲宇出津特急線 ▽乗り継ぎ便

2-(4)-②vi 渋滞・駐車場対策

芸術祭開催前から、交通・駐車場対策については懸念される点が多く、事前に珠洲警察署や奥能登土木事務所等の関係機関とも相談を行った。幸い、会期中に交通面においての大きな事故の発生は報告されなかったものの、市民アンケートにおいては「悪かった点」として8割近くの方が交通の状況を挙げるなど、今後に向けての大きな課題となった。

作品会場近くでは十分な駐車スペースを確保することが困難な場所もあることから、公共スペースのみならず、近隣住民等からの私有地を借り上げるなどの対応も考慮すべきであった。また、駐車場自体の案内が不十分であった点のほか、渋滞や駐車場整理に対応するスタッフの確保が難しく、十分な対応ができなかった点も反省点として挙げられる。

2-(4)-③ 受け入れ・もてなし

2-(4)-③i 珠洲 まつり御膳

「日本の祭と食文化の源流を探る」をコンセプトに、地域の秋祭りシーズンでの芸術祭開催であったことから、能登の秋祭りで行われる「よばれ」の風習にちなみ、市内16店舗の飲食店や宿泊施設において、「よばれ」料理をモチーフにした御膳料理を提供した。

各店の工夫を凝らした料理の内容とともに、赤御膳での提供は大変好評であった。閉幕後のふりかえり会議においては、予約制としたことで、概ね団体客への対応はスムーズであった半面、少人数での個人客への対応は難しかったとの意見もあった。今回の芸術祭を契機として提供を継続していく店舗もあり、今後の展開が期待される。

■ 珠洲 まつり御膳

市内の飲食店や宿泊施設にて、「よばれ」料理をモチーフにした御膳料理を提供

分類	提供数
飲食店（10店舗）	1,961膳
宿泊施設（6施設）	143膳
合計	2,104膳



2-(4)-③ ii 公式グッズ制作・販売

公式ガイドブックや作品鑑賞パスポートのほか、クリエイティブディレクターの浅葉克己氏がデザインした公式グッズを制作し、普及啓発及び会期中のお土産品として各所で販売した。開幕時に一部グッズの納品が間に合わなかった点は、大きな反省点として挙げられる。



■公式グッズ販売実績

公式インフォメーションセンター、道の駅すずなり、事務局等にて販売

分類	商品名	販売価格 (税込)	販売点数	売上額
公式グッズ 浅葉克己 (クリエイティブディレクター) デザイン	Tシャツ	2,500 円	170 点	425,000 円
	ピンバッジ	300 円	526 点	157,800 円
	カンバッチ	200 円	1,241 点	248,200 円
	クリアファイル	300 円	511 点	153,300 円
	手ぬぐい	600 円	460 点	276,000 円
	トートバック	500 円	149 点	74,500 円
	パスポートケース	300 円	452 点	135,600 円
	ポストカード	100 円	246 点	24,600 円
	シール (10 枚綴り)	100 円	385 点	38,500 円
	合計			
書籍等	公式ガイドブック	1,200 円	2,449 点	2,938,800 円
	公式マップ (日・英)	100 円	5,511 点	551,100 円
	英語版作品ガイド	100 円	49 点	4,900 円
	合計			

※平成 30 年 1 月 31 日時点

※公式ガイドブック、公式マップ (日) は、作品会場でも販売

2-(4)-③iii 珠洲特産品リデザイン事業

奥能登国際芸術祭の開催にあわせ、珠洲市の特産品についてメーカーとデザイナーが協働でデザインをリニューアルする「リデザイン」事業を実施し、地域の魅力をさらに広く発信するよう取り組んだ(会期中は総合インフォメーション等で販売)。



珠洲製塩「珠洲の海しお」

540 円 (税込)

デザイン/桂澤 源

珠洲の海水から流下式製塩法でじっくりと時間をかけて作った焼き塩。3種類の粗さがある。



夢のと「塩田のブレンド」塩シリーズ

650 円 (税込)

デザイン/浅葉球

珠洲の塩をもとに、厳選素材をブレンド。カラフルな全 10 種類。



夢のと「さいはて育ちの一味唐辛子」

2,160 円 (税込)

デザイン/重松淳也 (NON-GRID inc.)

地域のみで消費されてきた貴重な唐辛子を焙煎。



NPO 法人 能登すずなり「珠洲のお祝い饅頭」

1,080 円（税込）

デザイン／浅葉克己デザイン室

珠洲で昔から祝菓子として親しまれている定番和菓子の太鼓饅頭。



ムイネー「波の花バウム」シリーズ

1,500 円～（税込）

デザイン／渡辺明日

(NON-GRID inc.)

珠洲の塩や国産小麦粉、バターなど厳選素材を使ったバウムクーヘン。



メルヘン日進堂「能登の里山大地の虹」2,160 円（税込）

デザイン／山岸由依

珠洲の大地で育った野菜を練りこんだ、無添加で5色5層のバウムクーヘン。



日本醗酵化成「さいはてジンジャー」

1,080 円（税込）

デザイン／佐藤ゆめ

奥能登産のシソと生姜、レモンをじっくりと焼酎に付け込んだリキュール。



宗玄酒造「宗玄 石川門」
1,460 円（税込）
デザイン／軍司匡寛
(NON-GRID inc.)

奥能登栽培の酒米「石川門」と伏流水を使用した純米酒。



櫻田酒造「純米大吟醸 大慶」
800 円（税込）
デザイン／浅葉克己

昔ながらの味を守る、米本来の旨味を感じる味わい深い日本酒。



奥能登塩田村「塩らむね・塩れもん」
200 円（税込）
デザイン／浅葉克己
揚げ浜式製塩の塩が入ったご当地ドリンク。

2-(4)-③iv 市内「道の駅」利用状況

市内に3か所、それぞれが車で約30分の等間隔に存在する「道の駅」は、芸術祭で本市を訪れる多くの方々にとって、移動の拠点となった。入込客数、物販売上とも軒並み対前年比で上昇している。特に、市内バスターミナルと物産機能を持ち、作品(ギムホンソック「善でも悪でもないキオスク」作品No.21)が設置されている道の駅すずなりは、9-10月の入込客数が、前年比130.7ポイントアップ、物販売上が91.4ポイントアップと顕著であった。道の駅すず塩田村は、前年度のNHK朝ドラ「まれ」の影響が大きく、物販売上は前年度比マイナスとなったが、入込客数は対前年比でもアップしている。会期中を含む9~10月の市内道の駅3か所における入込客数と物販売り上げは以下のとおり。

■道の駅「すずなり」

	9月			10月			合計		
	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比
入込客数(人)	10,076	4,400	229.0%	10,157	4,370	232.4%	20,233	8,770	230.7%
物販売上(千円)	13,732	7,350	186.8%	14,270	7,277	196.1%	28,003	14,628	191.4%

■道の駅「すず塩田村」

	9月			10月			合計		
	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比
入込客数(人)	17,040	13,538	125.9%	17,607	13,865	127.0%	34,647	27,403	126.4%
物販売上(千円)	12,026	12,127	99.2%	12,402	13,869	89.4%	24,429	25,997	94.0%

■道の駅「狼煙」

	9月			10月			合計		
	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比
入込客数(人)	5,038	3,359	150.0%	4,917	3,181	154.6%	9,955	6,540	152.2%
物販売上(千円)	5,474	3,836	142.7%	5,724	3,769	151.9%	11,199	7,605	147.3%

■市内道の駅利用状況(3施設合計)

	9月			10月			合計		
	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比	H29	H28	前年比
入込客数(人)	32,154	21,297	151.0%	32,681	21,416	152.6%	64,835	42,713	151.8%
物販売上(千円)	31,233	23,314	134.0%	32,398	24,916	130.0%	63,632	48,231	131.9%

2-(4)-③v 「作品鑑賞パスポート特典」利用状況

会期中、市内の飲食店や宿泊施設などでパスポートを提示することにより、各種優待サービスを受けることができる「作品鑑賞パスポート利用特典の実施状況は以下のとおり。

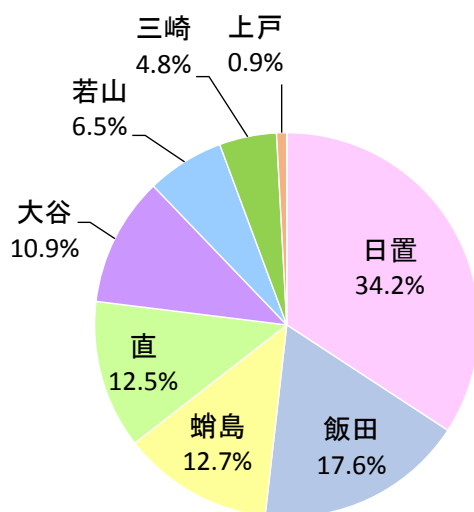
■パスポート特典の概要

実施期間	2017年9月3日～10月22日
対象施設等	49の店舗・施設及び金沢21世紀美術館 【内訳】小売店舗 17 (お土産、塩、菓子、酒等) 飲食店 15 宿 6 施設 6 その他 5 (各種サービス、ガソリンスタンド)

■パスポート特典の件数（地区別）

期間中に提供したパスポート特典の件数は9,625件である。

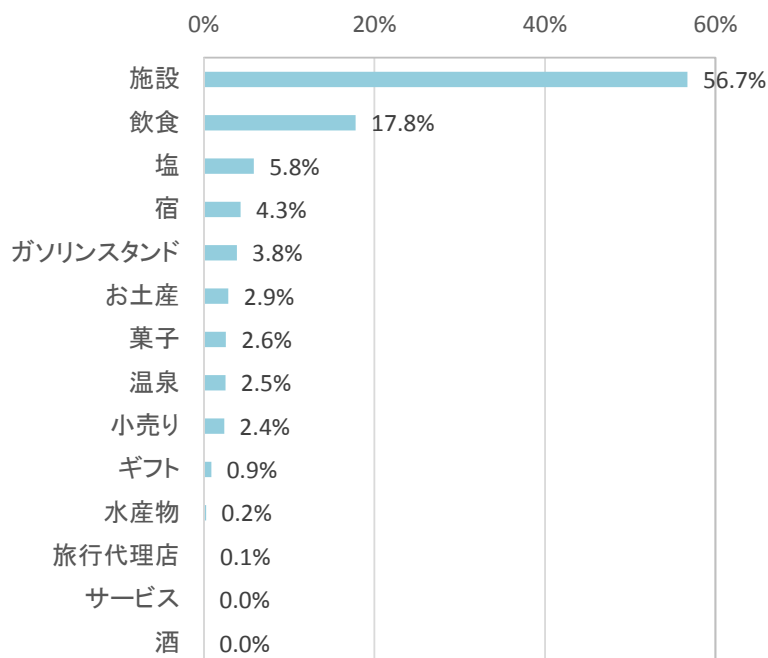
地区別にみると、日置（34.2%）、飯田（17.6%）が多い。



地区	9月	10月	合計	%
大谷	476	569	1,045	10.9%
日置	1,200	2,095	3,295	34.2%
三崎	246	216	462	4.8%
蛸島	632	590	1,222	12.7%
正院	0	0	0	0.0%
直	582	619	1,201	12.5%
飯田	752	938	1,690	17.6%
上戸	26	56	82	0.9%
若山	291	337	628	6.5%
金沢	0	0	0	0.0%
計	4,205	5,420	9,625	100.0%

■パスポート特典の件数（内容別）

内容別にみると、施設（56.7%）、飲食（17.8%）が多い。



ジャンル別	9月	10月	合計	%
施設	2,252	3,206	5,458	56.7%
飲食	883	829	1,712	17.8%
塩	215	348	563	5.8%
宿	220	194	414	4.3%
ガソリンスタンド	170	200	370	3.8%
お土産	165	110	275	2.9%
菓子	34	214	248	2.6%
温泉	109	133	242	2.5%
小売り	118	110	228	2.4%
ギフト	26	56	82	0.9%
水産物	7	17	24	0.2%
旅行代理店	5	3	8	0.1%
サービス	1	0	1	0.0%
酒	0	0	0	0.0%
計	4,205	5,420	9,625	100.0%

2-(4)-③vi 宿泊及び飲食について

公式ガイドブックへの情報掲載や公式ホームページに宿泊情報のバナーを貼るなど情報提供に努めたほか、市内宿泊施設への誘客のため、すずなり観光部会での研修実施や会期中のインフォメーション等での情報提供、相談対応を行ったが、アンケート結果からは回答者の半数程度が輪島市・能登町などの近隣市町や七尾市、金沢市等に宿泊したものと推察される。シングルユース希望者や移動の際の利便性など、来訪者のニーズとの隔たりを指摘する意見もあり、今後課題を残す結果となった。

また、事前から懸念されていた昼食提供場所等についても、アンケートや会期後のヒアリングでは改善を期待する声が多い。初回でもあり、実際の来場者の状況を想定しての準備や対応には難しいものがあつたと思われるが、当初の想定を超える多くの来場者の姿は、市内事業者や市民にとって、今後の提供機会の創出等に向けて、さまざまな可能性を感じさせるものとなった。

2-(4)-③vii 「日置ハウス」利活用状況について

廃校となった旧日置小中学校を改築し、日置地区の滞在交流の拠点として2017年6月にオープンした日置ハウスは、国際芸術祭においても作品制作のため滞在するアーティストや、国内外から集まったサポーターの宿舎として、大きな役割を果たした。

芸術祭への活用を通して、施設運営に携わった地域住民にはその運営ノウハウを蓄積する貴重な機会となったほか、今後の域学連携や交流人口拡大への取り組みにおける活用も一層期待されるものとなった。一方、事務局組織と別の運営組織であったため、利用者からは利用に関する疑問点などの窓口がどこかわからないとの声があり、次回開催に向けてはより密な連携が求められる。芸術祭にかかる利用実績は以下のとおり。

	作品制作期	会期中	作品撤去期	合計
宿泊者数	459人泊	536人泊	20人泊	1,015人泊

宿泊費は、実行委員会が負担。上記とは別にアーティストが439人泊した。

7月～10月は朝食・夕食を提供（費用は珠洲市が負担）

2-(4)-③viii 視察対応状況（平成30年2月13日現在）

芸術祭にかかる視察対応の主なものについては、以下のとおり。

実施日	団体名等	人数
9月5日	奥能登商工振興協議会	23
9月9日	東京珠洲会	20
9月11日	関西珠洲会	30
9月15日	高岡商工会議所	18
9月16日	県内商工会議所専務理事・事務局長	11
9月20日	珠洲市学校教育研究会 総合的な学習の時間研究会	7
9月21日	新潟県柏崎地域振興局	16
9月22日	大阪府四条畷市	4
9月26日	輪島商工会議所	6
9月28日	富山大学芸術文化学部	3
9月29日	石川県商工会議所女性会連合会	124
9月30日	珠洲市PTA連合会家庭教育委員会	18
10月2日	文化庁芸術文化課	2
10月5日	京都府和束町	3
10月10日	北海道白老町	1
10月14日	文化庁芸術文化振興室	1
10月16日	白山商工会議所 正副会頭	7
10月18日	アーツカウンシル東京、公益財団法人東京都歴史文化財団	3
10月27日	北信越議会事務局研修会	40
10月28日	日本風景街道大学	33
11月28日	石川県議会 商工観光公安委員会	15
合計	※事業説明等を行ったものに限る	385

2-(3)-④ 広報・宣伝の取り組みについて

芸術祭開催準備の当初から、さまざまな機会において広報・宣伝面における重要性が指摘される中で、総合ディレクターを中心として取り組み方針の検討が進められた。その結果、コミュニケーションディレクターに広告プランナーの福田敏也氏を招聘し、web デザイン、広告も含めた専門家によるプロジェクトチームを編成、奥能登国際芸術祭 2017 の広報・PR 戦略を担うこととなった。

東京を始めとする大都市圏には、WEB媒体を中心とした広報・宣伝を中心に、直前展を渋谷ヒカリエで開催するなど充実したものになった。他方で北陸圏、特に県都金沢での広報・宣伝は遅れをとり、地元マスメディアの協力によって、会期終盤に向けて徐々に露出が増加した。市内では、市の広報担当者、能越ケーブルネット、地元新聞社の取材により、広く周知されたが、開催後の口コミの影響も強かった。

2-(3)-④ i 「おくノートプロジェクト」の取り組み

平成 28 年 2 月からは、初開催となる奥能登国際芸術祭の国内外における知名度向上と地域における住民の参加意識の向上を目的とした「おくノートプロジェクト」を展開した。

おくノートプロジェクトでは、住民や来訪者等が地域の魅力を再発見することを目的に、「わるないわ～奥能登珠洲 写真と言葉の投稿コンテスト」を実施。子どもを対象にした写真ワークショップの開催やフリーペーパー「おくノート」(0 号～4 号)の発行など、投稿を促進するための取り組みを進めたほか、公式サイト内に奥能登珠洲の魅力や地域情報を中心に発信する「奥能登珠洲魅力ガイドおくノート」を開設した。

なお、投稿コンテストの入賞作品は「奥能登珠洲魅力 100 選」として平成 29 年 2 月の企画発表会において表彰されるとともに、今後の珠洲市の紹介にも使用可能な新たな宣伝媒体となっている。

■「わるないわ～奥能登珠洲 写真と言葉の投稿コンテスト」

募集期間:平成 28 年 2 月～12 月

応募点数:1,892 作品

審査員:

浅葉克己(アートディレクター、奥能登国際芸術祭クリエイティブディレクター)

石川直樹(写真家、奥能登国際芸術祭公式写真)

北川フラム(アートディレクター、奥能登国際芸術祭総合ディレクター)

ひびのこづえ(コスチューム・アーティスト)

中村浩二(金沢大学名誉教授)

福田敏也(広告・WEB プランナー、奥能登国際芸術祭コミュニケーションディレクター)

泉谷満寿裕(珠洲市長、奥能登国際芸術祭実行委員長)

■コドグラファー写真ワークショップ

珠洲の「すてき！かっこいい！おもしろい！」を見つけるワークショップ。

講師：中村こども

参加者：計 6 回 103 人

■星ぞら上映会

毎年 7 月の第 4 土日での開催が恒例となっているキャンプイベント「珠洲おやこの自然学校」とタイアップし、映画評論家を招いてのトークを交えた親子で楽しめる野外映画上映会を開催。

スペシャルゲスト：中井圭、松崎健夫(ともに映画評論家)

■おくノートワークショップ

参加者：石川県立飯田高等学校 総合学科 1 年生 40 名

講師：小池博史、堀内明

地元高校生独自の目線で、観光情報誌に載っていない珠洲のガイド地図を作る。

2-(3)-④ ii 広報印刷物

全国の美術館を中心に、カフェや県内道の駅へ配布を行った。しかし、全体的に印刷部数が少なく、エージェンต์への営業やイベント出展時に配布量が不足した。また、金沢 21 世紀美術館など興味を持つ来場者が多い施設には同内容でも定期的に配布する必要があると感じた。

下記に挙げるものは、紙面に印刷された広報物をリストアップしている。デザインは全てクリエイティブディレクターの浅葉克己氏、写真を使用している場合は、石川直樹氏が撮影したものを使用した。その他、必要に応じて随時資料を作成。

種類	仕上がりサイズ	仕様	部数
告知チラシ(船)	A4	両面	25,000 部(5,000 部増刷)
年賀状	ポストカード	両面	500 部
公募パンフレット	A4	二つ折り 両面	5,000 部
告知パンフレット(祭り)	A4	二つ折り 両面	20,000 部
告知ポスター(祭り)	B2	片面	1,000 部
会期用チラシ(鉄道)	A4	三つ折り 両面	70,000 部
会期用ポスター(鉄道)	B2	片面	1,000 部

2-(3)-④iii 公式ウェブの展開

公式ウェブサイトは何度かの改装を重ね、ビジュアルでのインパクトと実用性を兼ねた現在の状態となった。

平成 29 年度からはコミュニケーションディレクターの福田敏也をはじめ、作家や珠洲在住の方へのインタビューを行い、多角的な面から見た珠洲を紹介するコーナー「最涯珠洲を語る」を設け、各種 SNS とも連動し、幅広い年齢層への拡散を図ると同時に、読み物としての珠洲の魅力を伝える役割を担った。

公式ウェブには、会期直前に「重要なお知らせ」のコーナーを設け、公式 Twitter アカウントと連動し、ハッシュタグを拾って TOP ページに反映させるもの。「悪天候のため公開中止」といった情報をリアルタイムで更新した。お知らせページには、平成 29 年 9 月 5 日から 10 月 20 日まで北川フラム氏の「奥能登美術考(全 10 回)」を連載した。

おくノート WEB サイトでは「味わう」「泊まる」「知る・体験する」とジャンルを分けてフリーペーパー全 4 号分の内容を公開。「珠洲 まつり御膳」などの食プロジェクトの紹介も行った。



2-(3)-④iv 公式 SNS の運用

Facebook、Twitter、Instagram の3媒体を公式 SNS として運用。

平成 28 年度当初は、「奥能登国際芸術祭」のイメージを意識した運用だったが、平成 28 年度終盤には、「中の人」の特長を重視。親しみやすさ、共感を得られるように方針を変更。

平成 29 年度は SNS の更新頻度を重視し、会期前後は作品の制作状況等、会期中はパフォーマンスの様子や重要情報をリアルタイムで発信し、現場の盛り上がりを伝えられるような運用を行った。

2-(3)-④v 各種掲載・報道など（新聞、雑誌、テレビ、ラジオ、web 等）

県内各メディアをはじめ、雑誌社や首都圏メディアへプレスリリースを行った。

主なプレスリリースは NON-GRID INC. がデザイン。各種プレスでの掲載状況は下記のとおり。（平成 28 年 3 月～平成 29 年 11 月）

ジャンル	掲載数
新聞	273 件
雑誌	56 件
フリーペーパー	8 件
WEB 媒体	44 件
テレビ	27 件
ラジオ	2 件
その他	24 件
合計	434 件

※事務局へ素材提供、取材等依頼のあったもの

2-(3)-④vi 特別協力と有料広告

北國新聞社の特別協力のもと、会期前後も含め、数多くの記事が掲載された。こうした協力が県内を中心とした周知・PR に大きな役割を果たしたものと考えられる。

また、こうした取材記事のほか、実行委員会により会期中を中心に合計 6 回にわたり、北國新聞朝刊に有料広告を掲載した。

2-(3)-④vii シンポジウムほか、関連イベント

●平成 26 年度

「奥能登国際芸術祭の展望」

開催日 平成 27 年 2 月 8 日

会 場 珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部【基調講演】 北川フラム

【事例報告】「瀬戸内国際芸術祭のサポーター活動について」 甘利彩子

第二部【パネルディスカッション】

泉谷満寿裕・加藤典洋・久保田裕道・EAT&ART TARO・中瀬康志

●平成 27 年度

「奥能登国際芸術祭 2017 シンポジウム」奥能登・珠洲 15,000 人とともにつくる芸術祭

開催日 平成 28 年 2 月 14 日

会 場 珠洲市多目的ホール ラポルトすず

第一部【基調報告・企画発表】奥能登国際芸術祭に向けて 北川フラム

【半島の可能性】 石川直樹

【食べ物をもっと美味しくなる方法】 EAT&ART TARO

【イベント&公式サイト企画発表】 福田敏也・小池博史・堀内明

第二部【奥能登座談会 芸術祭トーク】

アート、食、民俗などテーマにわかれて芸術祭を語る

●平成 28 年度

「奥能登国際芸術祭企画発表会」

開催日 平成 29 年 2 月 19 日

会 場 珠洲市多目的ホール ラポルト珠洲

第一部【石川直樹の奥能登あるくみるきく】 石川直樹

【奥能登珠洲魅力 100 選の選出】 福田敏也

第二部【奥能登国際芸術祭企画発表会】 北川フラム

●平成 29 年度

「奥能登国際芸術祭開催記念 北陸アートフォーラム 『北陸の地方創生を考える』」

開催日 平成 29 年 5 月 27 日

会 場 北國新聞赤羽ホール

第一部【基調報告 公益資本主義とは何か】

「芸術文化が地域を創る～直島・瀬戸内の事例から～」 福武總一郎

「奥能登国際芸術祭について」 北川フラム
第二部【パネルディスカッション】
「奥能登国際芸術祭を北陸の地方創生につなげるには」
北川フラム・島敦彦・砂塚隆広・敷田麻実・舟見有加・泉谷満寿裕

「奥能登国際芸術祭 2017 開幕直前展」

開催日 平成 29 年 7 月 4 日～17 日
会 場 渋谷ヒカリエ 8 階 8/COURT・CUBE1,2,3
内 容
奥能登国際芸術祭 作品プランの特別展示
石川直樹のあるく、みる、きく
奥能登珠洲トラベルサロン
奥能登珠洲魅力 100 選 作品ギャラリー
SPECIAL TALK
4 日「最涯こそが最先端」浅葉克己・北川フラム・ひびのこづえ
「サポーター説明会」
5 日「クリエイターが語る“最涯の芸術祭”」福田敏也・小池博史・堀内明
7 日「さいはてのキャバレー準備中」 EAT&ART TARO・藤村龍至・みよしようこ

「開幕直前トークイベント」

開催日 平成 29 年 8 月 27 日
会 場 金沢 21 世紀美術館 レクチャーホール
「奥能登国際芸術祭を語る」 北川フラム
「アーティストは珠洲に何を感じたか」 リュウ・ジャンファ、眞壁陸二、よしだぎょうこ
「世界からみた最涯の芸術祭」 奥能登国際芸術祭 海外サポーター

2-(3)-④viii 広報せず掲載

毎月、市内全戸に配布される広報せずに連載ページを設け、タイムリーな情報を発信。
会期中の特集号では、ガイドブックのような充実した記事・内容となり好評であった。

2-(3)-④ix FM せず

会期中、ラポルトせず内にイベント放送局を開局し、9 月中の土日・祝日に、芸術祭関連情報を放送した。総合ディレクターのほか、サポーターや地域住民も出演し、現地ならではの臨場感ある情報提供が図られた。

3 開催効果にかかる検証

- 奥能登国際芸術祭 2017 の開催効果を検証するため、会期中に芸術祭を訪れた鑑賞者や、会期終了後の市民を対象に、珠洲市と北陸先端科学技術大学院大学 敷田研究室が共同でアンケート調査を実施した。
- その集計結果や各種統計データ等に基づく分析・検証結果について、概要は以下のとおり(アンケート調査の結果など、詳細は資料編を参照)。

3-(1) 効果把握の視点

奥能登国際芸術祭(以下、「芸術祭」と表記)の開催効果に関し、芸術祭の開催目的を鑑み以下の視点で整理を行う。

芸術祭の開催目的
①珠洲の魅力(伝統、文化、自然、食等)を広く伝える
②市民が珠洲の潜在力を再認識し自信と誇りを持つ
③全国から集まった鑑賞者、サポーター、市民が交流し新たなつながりが生まれる ⇒それにより、珠洲の魅力を高め、若い人を惹きつけ、UIターン、移住・定住につなげる

開催効果の整理
効果1 魅力の再発見、広域発信に関する効果
効果2 交流の促進、新たな人のつながりに関する効果
効果3 交流人口の増加
効果4 交流人口増加に伴う経済効果

3-(2) 開催効果の整理と分析

効果1 魅力の再発見、広域発信に関する効果

①市外から多くの人が訪れ、芸術祭を楽しんだ

約7万1千人の鑑賞者が芸術祭に訪れたが、うち25%は石川県外から、59%は珠洲市以外の県内から訪れている。芸術祭開催期間中の珠洲市の観光客数(芸術祭を鑑賞しない人を含む)をみると、県外から訪れた観光客が約4万3千人であり、関東(2万2千人)、近畿(8千人)等広域から人が訪れた。

芸術祭鑑賞者に対するアンケートでは、約6割が珠洲市を初めて訪れており、97%が芸術祭を楽しかったと感じ、ほぼ全員が「また珠洲市を訪りたい」と回答している。これまで珠洲市に対し関心の低かった人が、芸術祭をきっかけに珠洲市を訪れ、芸術祭を楽しんだことにより、珠洲市への来訪意向につながったと考えられる。

②多くのメディアに取り上げられ認知度が向上

2016～2017年において、新聞、テレビ、ラジオ、雑誌等のマスコミに取り上げられた放送、

掲載記事は 187 件である。特に新聞に関しては全国誌に複数回掲載され、全国的な認知度向上につながったと考えられる。

市民の感想からも、芸術祭の良かった点に関して「テレビや新聞に取り上げられた」(63%)、「珠洲の魅力が外に発信された」(59%)を挙げる声が大きく、魅力発信の効果を実感した市民が多い。

③市民が珠洲市の良さを再発見した

芸術祭を通じて、市民の約半数が珠洲市の良さを再認識、再発見できたと感じており、地域の魅力再発見につながったと考えられる。

自ら芸術祭を鑑賞することによる地域の魅力への気づきや、来訪者との交流やメディアに取り上げられたことによる魅力の再認識があったと思われる。

効果 2 交流の促進、新たな人のつながりに関する効果

①全国から集まった鑑賞者、サポーター、市民が交流

芸術祭開催を通じて、約 500 人の市民ボランティア、約 800 人の市外からのサポーターが参加したことにより、ボランティアスタッフ同士の交流が生まれた。

市民の約 7 割は芸術祭を鑑賞しており参加率が高い。鑑賞者のうち、芸術祭スタッフとコミュニケーションした人は約 9 割であり、鑑賞者、サポーター(スタッフ)、市民の交流機会が多く生まれたと考えられる。

②新たな人と人のつながりが創出された

芸術祭を通じて新しい知り合いが生まれた市民は 26%であり、知り合いになった相手は、市民が 54%、ボランティアが 38%、観光客が 34%、アーティストが 26%である。

芸術祭により、通常の市民生活では生まれにくい人と人のつながりが創出されている。

③若い人が珠洲市に興味を持つきっかけとなった

珠洲市以外の石川県内や、隣接する富山県、福井県からの観光客の年代をみると、20 代・30 代が多く半数以上を占めている。県外から訪れた観光客においても、約 15%が 20 代・30 代であった。芸術祭により若い世代が珠洲市を訪れ、関心を持つきっかけとなったと思われる。

効果 3 交流人口の増加

①芸術祭開催により観光入込客が増加

芸術祭開催期間中(9~10 月)の市内観光拠点における入込客数は 22 万 8 千人であり、前年同月比で 4 万 5 千人(+25%)の増加である。市内の宿泊者数は 2 万 7 千人であり、前年同月比で 1 千 6 百人(+6%)の増加である。宿泊した鑑賞者のうち、珠洲市で宿泊した人は 45%であり、金沢市、輪島市、能登町、七尾市等広域での宿泊がみられた。

②道の駅の入込客、売上が増加

道の駅(市内 3 施設)における芸術祭開催期間中(9~10 月)の変化をみると、入込客数は 6 万 5 千人であり、前年同月比で 2 万 2 千人(+52%)の増加、売上は 6 千 4 百万円であり、前年同月比で 1 千 5 百万円(+32%)の増加である。交流人口の増加により、商業施設の入込客数が増え、売上増加につながったと考えられる。

効果 4 交流人口増加に伴う経済効果

①経済波及効果は 5 億 2 千万円

鑑賞者のうち、イベント入場者を除く作品鑑賞者数 68,665 人を基に、小中学生等消費を伴わない人数を除き、一人あたりの消費額を乗じることで直接効果(消費額)を算出している。

直接効果は 4 億 1 千 8 百万円であり、波及効果に関しては県内事例等を参考に直接効果の 0.25 倍と仮定し 1 億 5 百万円と推計している。直接効果と間接効果を合わせた経済波及効果は 5 億 2 千 3 百万円である。

②市内業者への効果もみられた

芸術祭事業費における市内業者への発注額は約 8 千万円であり、総事業費の 5 分の 1 を占める。仕事で芸術祭に携わった市民は約 1 割であり、うち 25%は経済効果を実感している等、市内業者の仕事を増やす効果もみられる。

●総括

芸術祭の開催目的である、①珠洲の魅力を広く伝える、②市民が珠洲の潜在力を再認識し自信と誇りを持つ、③全国から集まった鑑賞者、サポーター、市民が交流し新たなつながりが生まれるに関しては、大きな効果が発現したと考えられる。

また、多くの鑑賞者が市外から訪れ各地で賑わう姿が見られたことから、芸術祭の継続開催に関する反対意見は、市民からほとんど聞かれない状況である。

一方、開催前の説明が不十分だったと感じる市民が半数を超え、開催期間中の感想として交通の状況に対する不満が多い等、課題の把握もできた。経済効果として一定の効果はみられるものの、芸術祭を訪れ宿泊した人のうち珠洲市で宿泊した人は約 6 割である。今回の調査では宿泊客の方が消費額が大きいことが解っており、市内で宿泊する比率を上げることが課題である。

このように、芸術祭は芸術鑑賞という直接の効果や観光客(鑑賞者)に対する芸術サービスの提供だけではなく、芸術祭以外の場である店舗やボランティア活動を通して、市民、開催関係者、鑑賞者の交流を創出した。また市民同士が交流する機会が創られており、地域内の交流や関係性の再構築にも繋がっていると考えられる。反面、芸術祭の説明が不足していることが指摘されるなど、「開催期間中以外の芸術祭の存在」が課題であることが明らかになった。その点では、3 年に 1 度の機会と捉えるのではなく、芸術祭が日常的活動であり、珠洲にとつ

での日常に芸術があるという状態に変化させていくことが望ましい。

以上、今回の芸術祭で高まった珠洲の認知度や市民の自信、人と人のつながりを活かし、総合的な政策として継続的に取り組むことにより、長期的な目標である「珠洲の魅力を高め、若い人を惹きつけ、UIターン、移住・定住につなげる」ことが実現され则认为られる。

4 継続作品及び今後の事業展開等について

- 奥能登国際芸術祭 2017 の作品については、当初から公共施設や公共スペースを利活用したものを中心に、その一部については継続作品として残していく方向で取り組む方針としていた。
- 会期終盤から、総合ディレクターや作家、アートフロントといった制作側はもちろん、所有者や地元関係者等と、作品としての今後の維持管理面における検討も含め、協議を進めてきた。
- その結果、現時点(平成 29 年度末)において、下記の作品について継続作品として取り扱うこととなった。今後も安全かつ適切に管理を行いつつ、芸術祭を契機とした本市の新たな観光資源として有効に活用していく。

■継続作品一覧

No.	作家名	国	作品名	場所	鑑賞料
1	塩田千春	日本	時を運ぶ船	大谷地区 (旧清水保育所)	300 円/人※
2	トビアス・レーベルガー	ドイツ	Something Else is Possible/ なにか他にできる	蛸島地区 (旧蛸島駅周辺)	
3	ひびのこづえ	日本	スズズカ	正院地区 (旧飯塚保育所)	
4	河口龍夫	日本	小さい忘れもの美術館	飯田地区 (旧飯田駅)	300 円/人※
5	ラックス・メディア・コレクティブ	インド	うつしみ	上戸地区 (旧上戸駅)	
6	リュウ・ジャンファ (刘建华)	中国	Drifting Landscape (移設後の作品名) 漂移する風景	宝立地区 (見付海岸) ※珠洲焼資料館 へ移設	
7	アレクサンドル・コンスタンチーノフ	ロシア	珠洲海道五十三次	正院、珠洲川尻、 能登洲崎、笹波口	

▼これらの作品については、今後の継続展示に向けてメンテナンス等の留意点を確認するとともに不慮の事故に備えて動産保険・施設賠償保険に加入。また、新たに作品看板を設置。

▼屋外の継続作品については、特に受付等はないため、会期中のような受け入れ態勢での鑑賞はできないものの、日常的に自由な鑑賞が可能。

▼※印の屋内作品については管理上の問題から事前相談により一定以上(20 名以上)の団体旅行に限り、有料にて公開実施中(団体旅行系エージェントに素材提供中)。

- 以下の2作品については、現在(平成29年度末現在)、今後の利活用に向けて調整中。調整が出来次第、上記の継続作品と同様に維持管理等に必要な措置を講じ、継続展示したいと考えている。

■調整中作品一覧

No.	作家名	国	作品名	場所
1	さわひらき	日本	魚話 <small>ぎよわ</small>	日置地区 (旧日置公民館)
2	金沢美術工芸大学アート プロジェクトチーム [スズプロ]	日本	静かな海流をめぐって	飯田地区 (古民家)

- 「さいはての『キャバレー準備中』」(EAT&ART TARO) 作品会場の運営について
珠洲市が所有する同会場(旧飯田港湾センター)を実行委員会で借上げ、平成30年1月15日から貸館会場として運営している。使用料は、1日3,000円から(別途 光熱水費・冷暖房等使用料)

5 次回にむけて

珠洲市の創生に向けて、これまで以上にU・Iターン、移住・定住を促進していくために、珠洲市の魅力を高めることが何よりも重要であることから、北陸地域で初となる地方芸術祭として「奥能登国際芸術祭 2017」を開催した。予想を上回る多くの来場者を迎え、会期中の市内は賑わいと活気に溢れるとともに、その模様は連日、新聞やテレビといったマスコミに数多く取り上げられた。芸術祭の開催を通して、これまで思うように伝えることができなかった珠洲市の潜在力の高さを、アートを通して遠く広く伝えることができたと同時に、多くの市民にとって、あらためて地域の良さを実感し、愛着や誇りを高め、珠洲市の未来に希望を感じる貴重な機会とすることができた。

ただ、今回の開催を通して、交通アクセスや食事提供、宿泊などの面をはじめとして、受け入れ態勢での課題も大きく浮かび上がってきた。これらの諸課題への対応に加えて、一層のサポーターの確保や事務局体制も含めた運営体制の充実を図るとともに、安定的な開催に向けた外部からの資金調達や支援拡大などに取り組んでいく必要がある。

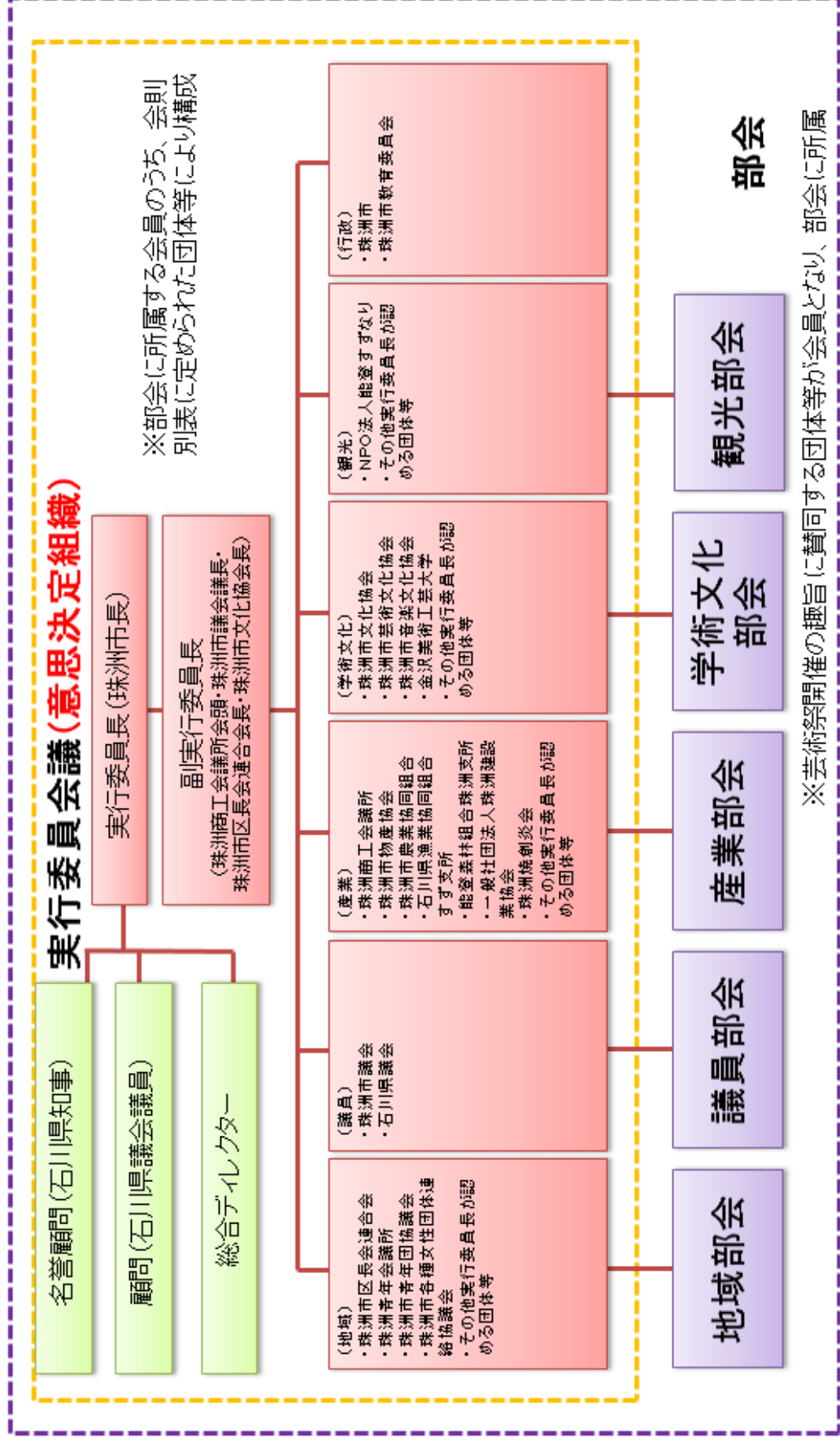
また、初回開催であったが故に、多くの市民にとって芸術祭自体のイメージが掴みづらかったことも事実であり、住民参加の機会創出にはまだまだ大きな余地が残されている。今回の開催経験を活かし、より多くの市民が参画し、市外からのサポーターとの協働により取り組んでいく体制を構築していかなければならない。

トリエンナーレ方式での開催を目指してきたことから、次回開催は東京オリンピックの開催年である2020年となる。芸術祭を単なるイベントとしてではなく、総合的かつ長期的な取り組みとして位置づけすることが、交流人口、関係人口の増加につながるのと同時に、ひいては珠洲の魅力を高め、若い人を惹きつけ、U・Iターン、移住・定住につながるものとする。

今回の芸術祭で高まった珠洲市の認知度や市民の誇りと自信、新たに生まれたつながりを活かし、さいはての地から、人の流れ、時代の流れを変えていく新たな「運動」としての奥能登国際芸術祭の開催を目指し、次回開催に向けて取り組んでいきたい。

資料編

奥能登国際芸術祭実行委員会組織図



※芸術祭開催の趣旨に賛同する団体等が会員となり、部会に所属



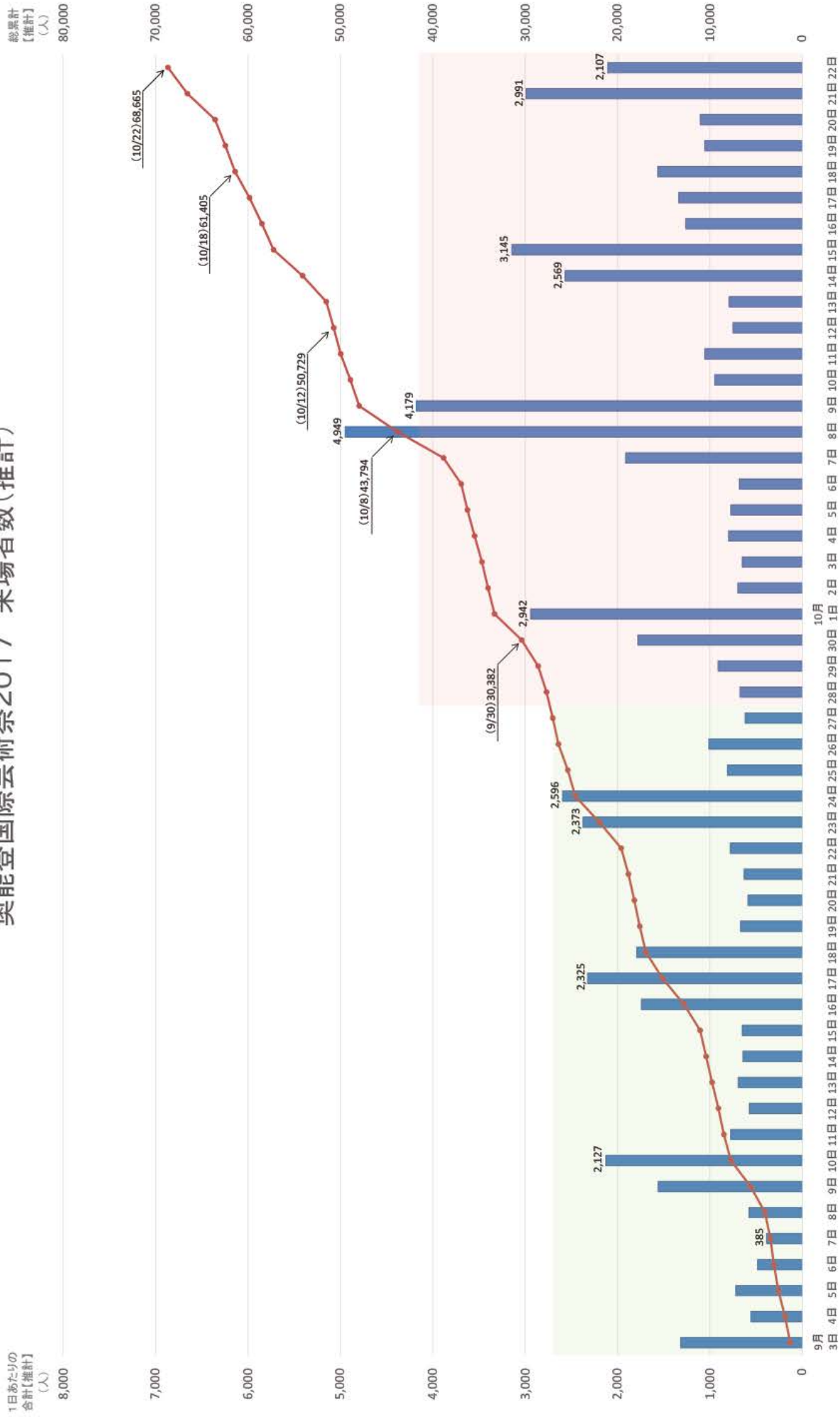
実行委員及び役員等

役 職	氏名	所属等
実行委員長	泉谷 満寿裕	珠洲市長
副実行委員長	三盃三千三	珠洲市議会 議長
副実行委員長	刀祢 秀一	珠洲商工会議所 会頭
副実行委員長	瀬戸 克彦	珠洲市文化協会 会長
副実行委員長	宗末 勝一	珠洲市区長会連合会 会長
実行委員	寺井 秀樹	珠洲市議会総務常任委員会 委員長
実行委員	番匠 雅典	珠洲市議会教育民生常任委員会 委員長
実行委員	濱野 隆三	珠洲市議会産業建設常任委員会 委員長
実行委員	橋本 良助	珠洲市副市長
実行委員	多田 進郎	珠洲市教育長
実行委員	真鍋 淳朗	金沢美術工芸大学 地域連携センター長
実行委員	泉谷 信七	珠洲商工会議所 副会頭
実行委員	太佐 寿一郎	珠洲市芸術文化協会 会長
実行委員	南方 治	珠洲市音楽文化協会 会長
実行委員	表野 悦夫	珠洲市農業協同組合 代表理事組合長
実行委員	新谷 栄作	石川県漁業協同組合すず支所 支所運営委員長
実行委員	山崎 浩伸	能登森林組合珠洲支所 支所長
実行委員	中市 勝也	一般社団法人珠洲建設業協会 会長
実行委員	重政 靖之	NPO法人能登すずなり 理事長
実行委員	藤野 裕之	珠洲市物産協会 会長
実行委員	篠原 敬	珠洲焼創炎会 会長
実行委員	瀬戸 航	珠洲青年会議所 理事長
実行委員	陳祐 喜和	珠洲市青年団協議会 会長
実行委員	中板 睦子	珠洲市各種女性団体連絡協議会 会長
名誉顧問	谷本 正憲	石川県知事
顧問	平蔵 豊志	石川県議会 議員
総合ディレクター	北川 フラム	株式会社アートフロントギャラリー 代表
監査委員	田畠 邦章	珠洲市代表監査委員
監査委員	上野 良夫	珠洲市監査委員

事務局

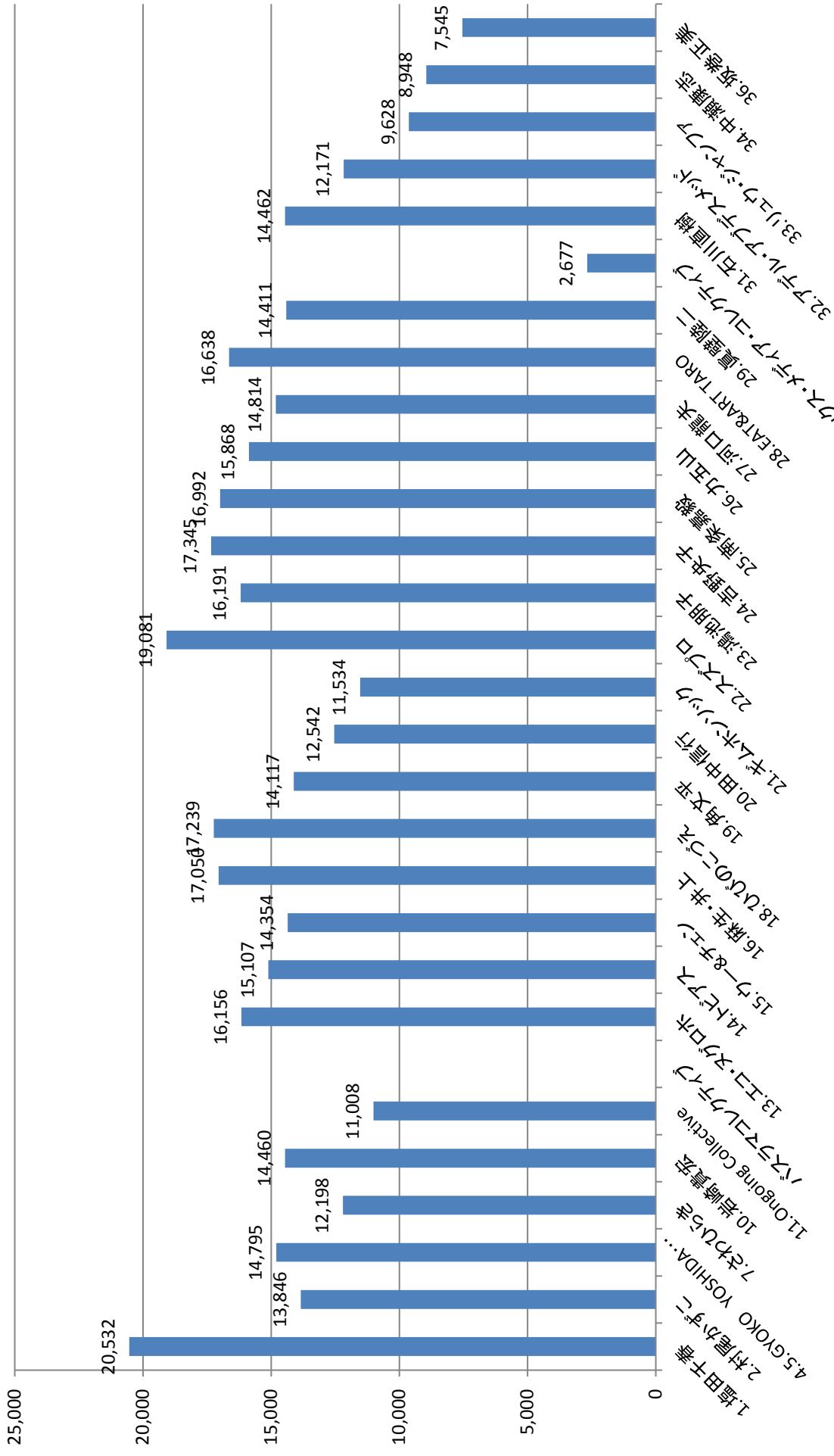
事務局長	金田 直之	珠洲市企画財政課長（奥能登国際芸術祭推進室長）
事務局次長	油谷 久雄	珠洲商工会議所 事務局長
事務局	下 吉晴	珠洲市産業振興課長
事務局	前田 保夫	珠洲市観光交流課長
事務局	山下 浩子	珠洲市教育委員会事務局長
事務局	才式 嘉明	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室次長
事務局	油谷 知加子	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室主任主事
事務局	長江 健太	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室主事
事務局	金田 友美	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室員
事務局	小島 万里奈	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室員
事務局	神徳 南美	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室員
事務局	鹿野 桃香	珠洲市奥能登国際芸術祭推進室員
事務局	源 和政	珠洲商工会議所 振興課長
事務局	稲實 育恵	珠洲商工会議所 主事補
事務局	野口 宗紀	珠洲商工会議所 主事補

奥能登国際芸術祭2017 来場者数(推計)



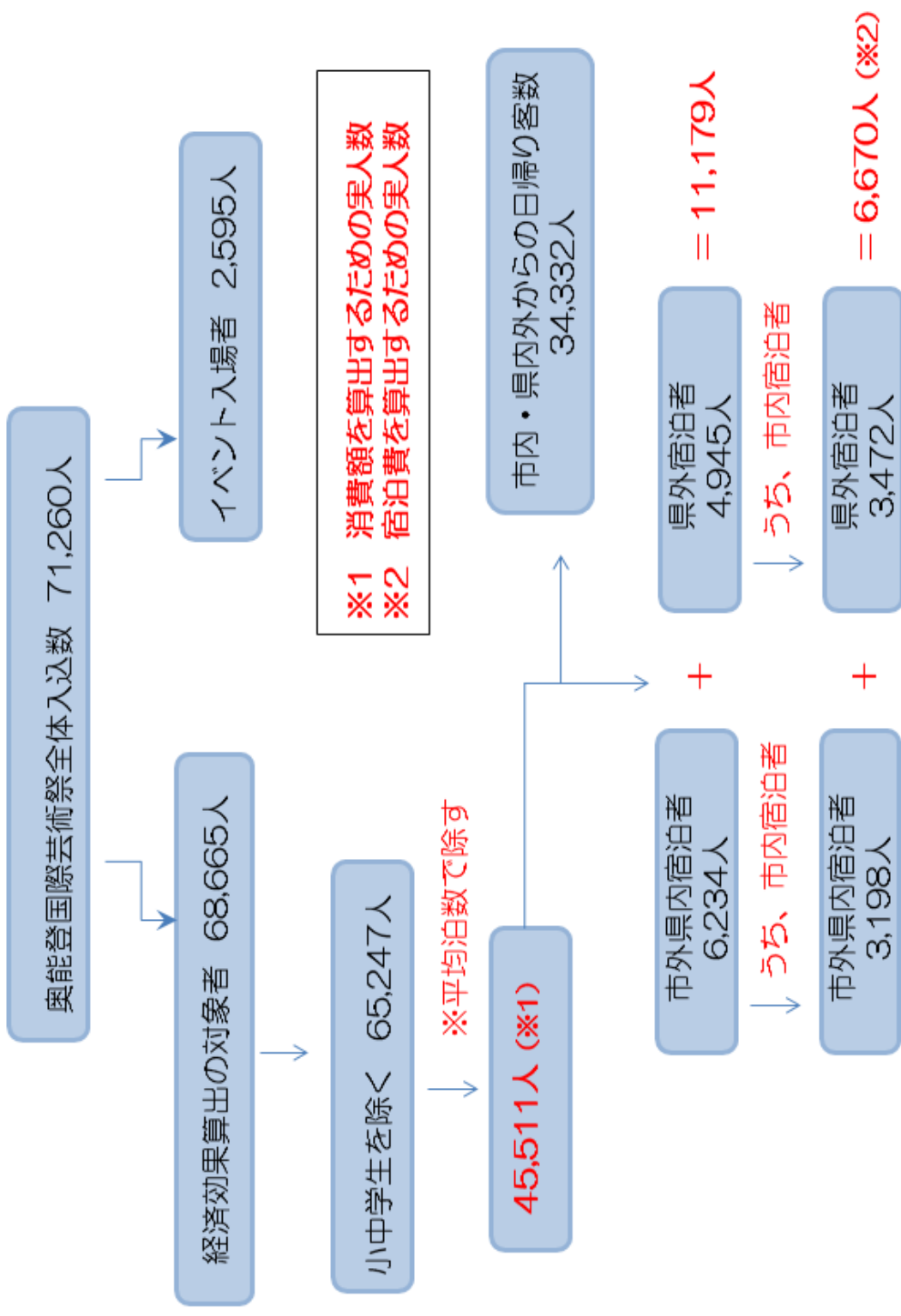
■ 1日あたりの合計(推計) ●●● 総累計(推計)

作品別来場者数(人)



※小山は地元の協力が得られる日のみ受付。ラックス、レビューは受付配置時のみ。ギムは9月13日から

「奥能登国際芸術祭2017」入込数の概要



～「奥能登国際芸術祭 2017」開催の経済効果等の概要～

1. 作品鑑賞者数の内訳（鑑賞者アンケート結果より分析）

・観光消費額（直接効果）を推計するため、対象の観賞者数を 68,665 人（イベントを除く）とし、属性を珠洲市内、石川県内（日帰り、宿泊）、石川県外（日帰り、宿泊）に分類する。

① 珠洲市内（日帰り）	9,788 人（14%）	→	8,414 人（18%）
② 石川県内（日帰り）	24,042 人（35%）	→	23,207 人（51%）
③ 石川県内（宿泊）	16,146 人（24%）	→	6,234 人（14%）
④ 石川県外（日帰り）	2,809 人（4%）	→	2,711 人（6%）
⑤ 石川県外（宿泊）	15,880 人（23%）	→	4,945 人（11%）
合計	68,665 人（100%）		45,511 人（100%）

※日帰り、宿泊の割合はアンケート結果から算出

※小中学生は経済効果算出対象人数から除いた

※宿泊鑑賞者については、アンケートから算出した平均泊数にて実人数とした

2. 消費額、宿泊費の算出（鑑賞者アンケートより算出）

・日帰り者、宿泊者の消費額はアンケート結果から算出した

① 珠洲市内（日帰り）	4,499 円／人
② 石川県内（日帰り）	5,931 円／人
③ 石川県内（宿泊）	8,895 円／人
④ 石川県外（日帰り）	8,507 円／人
⑤ 石川県外（宿泊）	13,296 円／人

・宿泊費については、県内、県外別にアンケート結果から算出した

③ 石川県内（宿泊）	11,878 円／人	※市内宿泊者 3,198 人, 平均泊数 1.5 泊
⑤ 石川県外（宿泊）	17,460 円／人	※市内宿泊者 3,472 人, 平均泊数 2.1 泊

3. 経済効果の算出（直接・間接）

・上記から、直接効果（観光消費額）の推計値は、以下のとおり

① 珠洲市内（日帰り）	37,854,586 円	
② 石川県内（日帰り）	137,640,717 円	
③ 石川県内（宿泊）	93,437,274 円	
④ 石川県外（日帰り）	23,062,477 円	
⑤ 石川県外（宿泊）	126,369,840 円	合計 418,364,894 円

- ・一般的に、直接効果（観光消費額）は波及的に関連分野にその経済効果を及ぼすと言われており、直近の石川県内全体の新幹線金沢開業に関する経済波及効果の試算では、直接効果の 50%程度という試算結果である。県内全体の産業構造に比べ珠洲市内の業種分野は小さいが、今回の直接効果の中心をなす宿泊や飲食等に関する原材料調達など一定の経済効果は得られているものと考えられることから、間接効果の直接効果比を「0.25」と仮定し推計する。

A 直接効果（観光消費額）	4.18 億円
B 間接 1 次、2 次効果	1.05 億円 (A×0.25)
合 計	5.23 億円

4. 報道機関等に関する効果（広告費換算）

- ・芸術祭の情報発信を本格的に行った 2016 年～2017 年において、地方及び全国のマスコミ等に取り上げられ放送・掲載された記事に関し広告費換算を行った。（民間調査機関実施）

・新聞	123 件	149,366,330 円
・テレビ	17 件	100,360,000 円
・ラジオ	7 件	30,240,000 円
・雑誌	23 件	12,327,732 円
・フリーペーパー	1 件	21,600 円
・WEB 媒体	14 件	11,700,000 円
・その他（会報等）	2 件	16,275,000 円
合計	187 件	320,290,662 円

5. 市内事業所への工事・業務発注額

- ・芸術祭の全体事業費約 4 億円のうち、約 80,000 千円は、市内事業所と契約した工事、業務等であり、市内経済への投資効果を及ぼしたものと考えられる。

6. 芸術祭開催の経済的効果の概要のまとめ

○経済効果（直接、間接）	5.23 億円
○広告換算費（PR 効果）	3.20 億円
○市内への投資額（関連工事、業務）	0.80 億円